〈資料編〉第２章

G7茨城・つくば科学技術大臣会合開催までのあゆみ

2.1 誘致の取り組み

1 誘致計画案提出

平成２６年８月２９日（金）に、外務省へ誘致計画案を提出

2 茨城つくばサミット関係閣僚会合誘致推進協議会

参照　概要編Ｐ 54

(1)目的

平成２８年に日本で開催される主要国首脳会議（Ｇ８サミット）に係る関係閣僚会合を、茨城県つくば市に誘致することを目的とし、官民一体となった誘致活動を行う。

(2)所掌事項

①構成団体間の連絡体制を確立し、誘致に向けた意思統一を図ること
②茨城県、つくば市及び関係団体等の誘致に対する気運醸成を図ること
③国が開催地候補の自治体に対して行う現地調査への協力に関すること
④つくば市の特色を生かすことができるＧ８閣僚会合の開催を国に求めること
⑤その他、Ｇ８閣僚会合の誘致活動に必要な事項に関すること

(3)組織

会　長：橋本　昌　茨城県知事
副会長：市原　健一　つくば市長
　　楠田　幹人　茨城県副知事
会　員：＜茨城つくばサミット関係閣僚会合誘致推進協議会　構成員＞参照

＜茨城つくばサミット関係閣僚会合誘致推進協議会　構成員＞

NO	区分	機関名
1	行政	茨城県（知事、副知事）
2		つくば市（つくば市長）
3	議員	茨城県選出　国会議員
4		茨城県議会議員（議長、副議長、総務企画委員会、防災環境商工委員会、つくば市選出議員）
5		つくば市議会議員（総務常任委員会、文教福祉常任委員会、環境経済常任委員会、都市建設常任委員会）
6	大学	国立大学法人　筑波大学
7		国立大学法人　茨城大学
8	施設	一般財団法人　茨城県科学技術振興財団（つくば国際会議場）
9		公益財団法人　つくば文化振興財団（つくばカピオ）
１０	科学技術	国立研究開発法人　産業技術総合研究所
１１		国立研究開発法人　物質・材料研究機構
１２		国立研究開発法人　農業・食品産業技術総合研究機構
１３		国立研究開発法人　防災科学技術研究所
１４		国立研究開発法人　農業生物資源研究所
１５		国立研究開発法人　農業環境技術研究所
１６		国立研究開発法人　森林総合研究所
１７		国立研究開発法人　宇宙航空研究開発機構
１８		一般社団法人　茨城研究開発型企業交流協会
１９		大学共同利用機関法人　高エネルギー加速器研究機構
２０		株式会社つくば研究支援センター
２１		一般社団法人　つくばグローバル・イノベーション推進機構
２２		一般財団法人　日本自動車研究所
２３		筑波研究学園都市交流協議会
２４		公益財団法人　つくば科学万博記念財団
２５		ＣＹＢＥＲＤＹＮＥ株式会社
２６		ロボット特区実証実験推進協議会
２７	観光	一般社団法人　茨城県観光物産協会
２８		一般社団法人　つくば観光コンベンション協会
２９	宿泊施設	茨城県ホテル旅館生活衛生同業組合
３０	経済	茨城産業会議
３１		つくば市商工会
３２	交流	公益財団法人　茨城県国際交流協会
３３		一般財団法人　つくば市国際交流協会

⑷ 開催

①設立総会

日時：平成２６年１１月１７日（月）１４：３０～１５：０５

場所：つくば市役所　５階　庁議室

あいさつ：橋本知事（誘致推進協議会会長）
市原市長（誘致推進協議会副会長）

議事：平成２８年Ｇ８サミットに係る関係閣僚会合の誘致について
今後の誘致活動について

②第２回総会

日時：平成２７年６月２９日（月）１１：００～１１：４５

場所：つくば市役所　６階　全員協議会室

あいさつ：橋本知事（誘致推進協議会会長）

議事：誘致に向けた要望活動の経過報告

3 茨城つくばサミット関係閣僚会合誘致推進協議会執行委員会

(1)目的

執行委員会は、茨城つくばサミット関係閣僚会合誘致推進協議会が行う平成２８年主要国首脳会議（Ｇ８サミット）に係る関係閣僚会合のつくば市への誘致活動を実務者レベルで検討することを目的とする。

(2)所掌事項

①茨城県、つくば市及び関係団体等の誘致に対する気運醸成を図るための具体的な取り組みの検討

②国が開催地候補の自治体に対して行う現地調査への協力に係る連絡調整

③その他、Ｇ８閣僚会合の誘致活動に必要な事項に関すること

(3)組織

＜茨城つくばサミット関係閣僚会合誘致推進協議会執行委員会　構成員＞

Ｎｏ	区分	機関・組織名
1	執行委員長	茨城県副知事
2	執行委員	茨城県国際課
3	執行委員	茨城県科学技術振興課
4	執行委員	茨城県つくば地域振興課
5	執行委員	茨城県観光物産課
6	執行委員	つくば市企画課
7	執行委員	つくば市科学技術振興課
8	執行委員	つくば市国際･文化課
9	執行委員	つくば市観光物産課
１０	執行委員	一般財団法人　茨城県科学技術振興財団（つくば国際会議場）
１１	執行委員	国立大学法人　筑波大学国際室担当課
１２	執行委員	筑波研究学園都市交流協議会
１３	執行委員	一般社団法人　茨城県観光物産協会
１４	執行委員	一般社団法人　つくば観光コンベンション協会
１５	執行委員	茨城県ホテル旅館生活衛生同業組合

(4)開催

①**誘致推進協議会**　第１回執行委員会（平成２６年１２月１９日（金））

②**誘致推進協議会**　第２回執行委員会（平成２７年２月４日（水））

4 国への誘致活動

参照　概要編Ｐ 54

＜国への誘致活動一覧＞

年月日	要望先	要望者
平成２７年６月８日(月)	額賀　福志郎 自由民主党東日本大震災復興加速化本部　本部長	橋本知事 ※復興関連予算の要望と併せて要望
	杉田　和博 内閣官房副長官	橋本知事、市原市長
	菅　義偉 内閣官房長官	橋本知事、市原市長
	梶山　弘志 衆議院議員	楠田副知事
平成２７年６月１５日(月)	田島　浩志 外務省経済局政策課長	楠田副知事
	滝崎　成樹 外務省伊勢志摩サミット準備事務局長	楠田副知事
平成２７年６月１９日(金)	茨城県選出国会議員	橋本知事 ※中央要望の説明会において説明
	齋木　尚子 外務省経済局長	楠田副知事
平成２７年６月２４日(水)	山口　俊一 科学技術担当大臣	橋本知事、市原市長、 茨城県議会議長、つくば市議会議長
	山口　那津男 公明党代表	橋本知事、市原市長、 茨城県議会議長、つくば市議会議長
	岸田　文雄 外務大臣	橋本知事、市原市長、 茨城県議会議長、つくば市議会議長 楠田副知事

5 議会における決議

・ つくば市議会において「平成２８年主要国首脳会議関係閣僚会合のつくば市開催を求める決議」可決（平成２７年３月１９日（木））
・ 茨城県議会において「平成２８年主要国首脳会議（サミット）関係閣僚会合のつくば市開催に関する決議」可決（平成２７年３月２３日（月））

6 機運醸成の主な取り組み

参照　概要編Ｐ 55

・ 広報チラシ（５万部）：誘致推進協議会の構成団体、各種イベント等で配布
・ ポスター（１５枚）：茨城県庁舎、つくば市役所、つくば国際会議場に掲示
・ 横断幕（１枚）：つくば国際会議場に掲出
・ のぼり旗（２２枚）：つくば駅、研究学園駅、つくば国際会議場に設置
・ ラジオ、テレビ（計２５回）：茨城放送、ＦＭぱるるん、ラジオつくば、ＮＨＫデータ放送におけるＰＲ
・ ホームページ：茨城県公式ホームページ内に特設ページを開設
・ 誘致パンフレット（１，０００部）：国への要望活動等に使用

2.2 開催までの取り組み

1 Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会

Ｇ７茨城･つくば科学技術大臣会合の成功に向けて、開催準備を円滑に進めるため、「茨城つくばサミット関係閣僚会合誘致推進協議会」の発展的改組により「Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会」を設立した。

(1) Ｇ７茨城･つくば科学技術大臣会合推進協議会総会

参照　概要編Ｐ 56

①設立総会

日時：平成２７年９月３日（木）１４：００～

場所：茨城県開発公社ビル４階　4-Ｈ会議室

あいさつ：橋本　昌　茨城県知事（Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会　会長）
市原　健一　つくば市長（Ｇ７茨城･つくば科学技術大臣会合推進協議会　副会長）

議事：

・Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会の設立について
・Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会の規約について
・役員の選任について
・基本方針について

②第２回総会

日時：平成２７年１１月１７日（火）１０：３０～

場所：文部科学省研究交流センター２階　国際会議場

あいさつ：市原　健一　つくば市長（Ｇ７茨城･つくば科学技術大臣会合推進協議会　副会長）

議事：

・新会員の参加について
・推進体制の整備状況について
・事業計画案について
・予算案について
・監事の選任について
・Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合応援事業及び協賛金の募集について

③第３回総会

日時：平成２８年６月２７日（月）　１１：００～

場所：文部科学省研究交流センター２階　国際会議場

あいさつ：橋本　昌　茨城県知事（Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会　会長）
市原　健一　つくば市長（Ｇ７茨城･つくば科学技術大臣会合推進協議会　副会長）

議事：

・Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合の結果概要について
・会長専決処分（予算・事業）について

⑵ Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会作業部会

Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合の開催に向けて、分野ごとに専門的な知識を持った職員による具体的な業務遂行のため、県及び市からなる作業部会（プロジェクトチーム、以下ＰＴ）を設置した。

①設置日

平成２７年１０月７日（水）

②各ＰＴの業務内容と構成

	ＰＴ名	業務内容等
1	情報発信ＰＴ	本県魅力発信のためのＤＶＤやパンフレット、啓発品等企画・制作 ＰＴリーダー：茨城県広報監 幹　事　課：茨城県広報広聴課 県関連課：つくば地域振興課、科学技術振興課、情報政策課等 市関連課：広報広聴課、シティプロモーション室等
2	危機管理ＰＴ	警備体制、救急医療対応、大規模災害対応 ＰＴリーダー：茨城県防災・危機管理局長 幹　事　課：茨城県消防安全課 県関連課：防災・危機管理課、医療対策課、保健予防課、生活衛生課、病院局経営管理課、県警本部警備課、情報政策課、道路維持課、下水道課、企業局等 市関連課：市消防本部、危機管理課、健康増進課等
3	ハイスクールサミットＰＴ	次世代への意識啓発のための模擬サミット企画・運営 ＰＴリーダー：茨城県教育庁学校教育部長 幹　事　課：茨城県教育庁高校教育課 県関連課：総務課私学振興室、義務教育課、科学技術振興課等 市関連課：企画・国際課、教育総務課等
4	おもてなしＰＴ	歓迎レセプション等におけるおもてなしの企画・運営 ＰＴリーダー：茨城県農林水産部次長 幹　事　課：茨城県販売流通課 県関連課：産地振興課、産業技術課、産業政策課、観光物産課、生活文化課等 市関連課：観光物産課、農業課、市民活動課等
5	Ｇ７開催記念シンポジウムＰＴ	ノーベル賞受賞者等科学者・大臣によるシンポジウム企画・運営 ＰＴリーダー：茨城県科学技術振興監 幹　事　課：茨城県科学技術振興課 県関連課：つくば地域振興課等 市関連課：科学技術・特区推進課等
6	エクスカーションＰＴ	研究機関や観光地を巡るエクスカーション（事前視察含む）企画・運営 ＰＴリーダー：茨城県商工労働観光部次長 幹　事　課：茨城県国際観光課 県関連課：科学技術振興課、販売流通課、産地振興課、廃棄物対策課、県警本部警備課等 市関連課：観光物産課等
7	展示ＰＴ	科学技術・モノづくり産業等の展示会の企画・運営 ＰＴリーダー：茨城県企画部次長 幹　事　課：茨城県科学技術振興課 県関連課：産業政策課、産業技術課等 市関連課：科学技術・特区推進課、産業振興課、シティプロモーション室等

2 茨城県とつくば市の推進体制

Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合の成功に向けて、県及び市において推進体制の整備を図り、開催準備を円滑に進めるための組織を設置した。

(1)茨城県の推進体制

①国際課の体制強化

平成２７年８月１日（土）：７名体制（専任３名（つくば市派遣１名含む）、兼務４名）に増員。
その他、職員１名を内閣府に派遣

平成２７年９月３日（木）：協議会事務局職員として、１１名体制に移行

②国際課大臣会合推進グループ

協議会事務を専門に取り扱う大臣会合推進グループを新設

1)設置日：平成２７年１２月１日（火）

2)体制：協議会人員の変遷（Ｐ２１７）と同様

③Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進本部

茨城県庁の組織横断的な調整を図るため、推進本部を設置した。

1)設置日：平成２７年８月１１日（火）

2)構成：

＜本部長＞知事

＜副本部長＞副知事　２名

＜本部員＞理事兼政策審議監、知事公室長、広報監、国際政策統括監、総務部長、地域支援監、企画部長、科学技術振興監兼国際戦略総合特区推進監、情報化統括監、生活環境部長、防災・危機管理局長、保健福祉部長、商工労働観光部長、農林水産部長、土木部長、国体・障害者スポーツ大会局長、会計管理者、企業局長、病院事業管理者、教育長、警察本部長、理事兼東京事務所長（平成２８年５月時点）

3)開催：

第１回　茨城県推進本部会議　平成２７年８月１１日（火）

第２回　茨城県推進本部会議　平成２８年１月５日（火）

第３回　茨城県推進本部会議　平成２８年５月１３日（金）

④Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進本部　幹事会

茨城県推進本部における実務レベルでの調整を図るため，幹事会を設置した。

1)設置日：平成２７年１２月１５日（木）

2)構成：

＜幹事長＞理事兼政策審議監

＜幹　事＞広報監、国際政策統括監、企画部次長、科学技術振興監、防災・危機管理局長、商工労働観光部次長、農林水産部次長、教育庁学校教育部長

※大臣会合推進協議会の事務局長及び各ＰＴリーダーが幹事として参加

3)開催：

第１回　幹事会　平成２７年１２月１５日（火）

第２回　幹事会　平成２８年１月２０日（水）

第３回　幹事会　平成２８年２月２４日（水）

第４回　幹事会　平成２８年３月２９日（火）

⑵ つくば市の推進体制

①Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合つくば市推進会議

1) 設置日：平成２７年１１月１１日（水）

2) 構成：

＜議長＞（当初）企画部長→（Ｇ７推進室発足［平成 28 年 2 月 5 日（金）］後）科学技術振興部長

＜構成員＞市長公室長、総務部長、企画部長、財務部長、市民部長、環境生活部長、福祉部長、保健医療部長、経済部長、まちづくり推進部長、建設部長、上下水道部長、会計管理者、教育局長、消防本部消防長、議会事務局長、選挙管理委員会事務局長、監査委員事務局長、農業委員会事務局長

3) 開催：

第１回　Ｇ７茨城･つくば科学技術大臣会合つくば市推進会議　平成２７年１１月１１日（水）

第２回　Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合つくば市推進会議　平成２８年１月２０日（水）

第３回　Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合つくば市推進会議　平成２８年４月１１日（月）

②Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合つくば市推進会議ワーキンググループ会議

Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合つくば市推進会議の作業部会として設立した。

1) 設置日：平成２７年１１月１１日（水）

2) 構成：

＜議長＞（当初）企画部次長→（Ｇ７推進室発足 [平成 28 年 2 月 5 日（金）] 後）科学技術振興部次長

＜構成員＞各部・室の次長級及び関連する課等の長開催

3) 開催：

第１回　会議　平成２７年１２月１８日（金）

第２回　会議　平成２８年２月１日（月）

※その他、ワーキンググループごとに会議を開催

③Ｇ７推進室

大臣会合の開催準備を組織横断的に推進するため、Ｇ７推進室を設置した。

1) 設置日：

平成２８年２月５日（金）

2) 設置場所：

つくば市科学技術振興部内

3) 体制：

１３名

室長（科学技術振興部長）、サブ･リーダー（科学技術･特区推進課長）のほか、広報、企画、危機管理、観光物産等の各担当者をメンバーとして組織

3 関係機関との連絡調整

大臣会合に向け、内閣府や茨城県警等の関係機関との連携をはかるため、定例ミーティングを実施した。

＜定例ミーティング一覧＞

実施日	参加者	場所
平成２７年１０月１４日（水）	協議会（茨城県・つくば市）、茨城県警察	茨城県庁
平成２７年１０月２８日（水）	協議会（茨城県・つくば市）、茨城県警察	茨城県庁
平成２７年１１月５日（木）	内閣府、協議会（茨城県・つくば市）、茨城県警察	茨城県庁
平成２７年１１月１１日（水）	協議会（茨城県・つくば市）、茨城県警察	茨城県庁
平成２７年１２月１６日（水）	協議会（茨城県・つくば市）、茨城県警察	茨城県庁
平成２８年１月７日（木）	内閣府、協議会（茨城県・つくば市）、茨城県警察、ＪＴＢ	茨城県庁
平成２８年１月２５日（月）	同上	文部科学省研究交流センター等
平成２８年１月２９日（金）	同上	文部科学省研究交流センター
平成２８年２月２日（火）	同上	文部科学省研究交流センター
平成２８年２月９日（火）	同上	文部科学省研究交流センター
平成２８年２月１６日（火）	同上	文部科学省研究交流センター
平成２８年２月２２日（月）	同上	文部科学省研究交流センター
平成２８年３月４日（金）	内閣府、協議会（茨城県・つくば市）、茨城県警察、ＪＴＢ、つくば国際会議場	文部科学省研究交流センター
平成２８年３月１１日（金）	同上	文部科学省研究交流センター
平成２８年３月１８日（金）	同上	文部科学省研究交流センター
平成２８年３月２５日（金）	同上	文部科学省研究交流センター
平成２８年４月１３日（水）	同上	文部科学省研究交流センター
平成２８年４月２５日（月）	同上	文部科学省研究交流センター
平成２８年５月１０日（火）	同上	文部科学省研究交流センター
平成２８年５月１２日（木）	同上	文部科学省研究交流センター

4 過去の開催地への視察、勉強会等

⑴国内視察

①期間：平成２７年１０月１日（木）－２日（金）

②視察先：新潟県新潟市（２００８年Ｇ８労働大臣会合受入、２０１０年ＡＰＥＣ食料安全保障担当大臣会合受入）

③視察者：Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会　書記　２名
つくば市　担当　１名

⑵海外視察

①期間：平成２７年１１月７日（水）－１１月１１日（日）

②視察先：２０１５年Ｇ７科学技術大臣会合（ドイツ・ベルリン市）

③視察者：Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会　事務局長及び書記

⑶各種勉強会

①先行開催自治体（新潟県・新潟市）幹部をお招きした勉強会

1)目的：先行開催自治体幹部から大臣会合受入自治体としての経験・体制・心構えを学ぶ

2)日時：平成２７年１０月２２日（木）１４：００～１６：００

3)場所：茨城県庁行政棟１１階 会議室

4)講師：新潟県知事政策局長　佐久間　豊氏
新潟市地域・魅力創造部長　高橋　建造氏
新潟市地域・魅力創造部２０１６年サミット推進課長　遠藤　和典氏

5)参加者：推進協議会の作業部会（ＰＴ）リーダー、ＰＴ幹事課及び関連課の職員、市職員等

②外務省伊勢志摩サミット準備事務局長をお招きした勉強会

1)目的：Ｇ７サミット及び大臣会合開催の意義について県庁議メンバーに講演

2)日時：平成２７年１１月９日（月）９：３０～１０：３０

3)場所：茨城県庁行政棟５階　庁議室

4)講師：外務省伊勢志摩サミット準備事務局長　滝崎　成樹氏

5)参加者：茨城県庁議メンバー

5 関係閣僚会合開催自治体との連携

(1)各種情報共有

伊勢志摩サミット及び関係閣僚会合開催自治体とメールや電話等にて、適宜情報共有を行った。

(2)関係閣僚会合開催自治体の本県視察受入

年月日	受け入れた自治体	視察内容
平成２８年2月１０日(水)	神戸市	ハイスクール科学技術サミットの視察
平成２８年2月１７日(水)	軽井沢町	情報交換及びつくば国際会議場の視察
平成２８年4月4日(月)	神戸市	高級実務者会合の視察
平成２８年5月１５日(日) 平成２８年5月１６日(月) 平成２８年5月１７日(火)	長野県及び 軽井沢町	Ｇ７茨城･つくば科学技術大臣会合の視察

(3)各種連絡会議

①閣僚会合開催自治体連絡会議

伊勢志摩サミットの関係閣僚会合が開催される機会を捉え、閣僚会合が開催される自治体間において連携してＰＲ等を行うことで、開催地の魅力発信をより効果的に行っていくことを目的に閣僚会合開催自治体連絡会議を開催した。

1)構成団体及び構成員：茨城県、長野県、富山県、香川県、仙台市、新潟市、倉敷市、広島市、北九州市、神戸市の課長級職員

2)事務局：神戸市

3)開催日：第１回　平成２７年１１月１３日（金）
第２回　平成２７年１２月１８日（金）

②伊勢志摩サミット・関係閣僚会合開催自治体連絡会議

上記、閣僚会合開催自治体連絡会議に伊勢志摩サミットの受入れ自治体である三重県が参画して連絡会議。

1)構成団体及び構成員：三重県、茨城県、長野県、富山県、香川県、仙台市、新潟市、倉敷市、広島市、北九州市、神戸市の課長級職員

2)事務局：三重県

3)開催日：第１回　平成２８年1月２８日（木）
第２回　平成２８年7月２９日（金）予定

4)実績例：平成２８年３月１０日（木）　自治体首長による合同官邸訪問ＰＲ
その他，各大臣会合におけるポスター掲出等

6 政府視察受け入れ

参照　概要編Ｐ 56

⑴ 内閣府職員による会場視察

日時：平成２７年７月１３日（月）１０：００～

場所：

つくば国際会議場

オークラフロンティアホテルつくば

ホテルグランド東雲

つくば山水亭

視察者：内閣府職員　３名

⑵ 島尻大臣による視察

日時：平成２７年１２月９日（水）１２：００～１２：２５

会談参加者：

島尻　安伊子　内閣府特命担当大臣（科学技術政策）

橋本　昌　茨城県知事（Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会　会長）

市原　健一　つくば市長（Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会　副会長）

江崎　玲於奈　つくば国際会議場　館長（ノーベル物理学賞受賞者）

視察先：つくば国際会議場

2.2 開催までの取り組み

7 大使館向けツアーの実施

参照　概要編 P 57

(1)実施主体

協議会

(2)第１回

①日時：平成２８年1月２２日（金）　１３：３０～１９：３０

②参加者：イタリア・カナダ・フランス・アメリカ・イギリス・ドイツ大使館職員、ＥＵ代表部職員、及び内閣府職員　計１９名

	参加国／機関	参加者役職
1	イタリア	1)科学技術アタッシェ
2	カナダ	1)二等書記官(商務)
3	フランス	1)科学技術参事官 2)科学技術参事官補佐
4	アメリカ	1)二等書記官 2)科学担当アナリスト 3)調達担当官 4)報道官 5)報道担当補佐 6)エネルギー･アタッシェ
5	イギリス	1)部長
6	ドイツ	1)科学技術担当参事官 2)科学技術･食糧農業調査官 3)通訳
7	ＥＵ	1)科学技術アドバイザー
8	内閣府	1)大臣官房審議官 2)参事官補佐(国際総括) 3)参事官補佐(国際担当) 4)参事官(国際担当)付

③移動手段

つくばエクスプレス秋葉原駅より、つくば駅まで貸切車両にて移動

つくば市内に於いては大型バス１台（貸切）にて移動

④視察先

1)宿泊施設視察

ホテルグランド東雲、オークラフロンティアホテルつくば

2)大臣会合会場視察

つくば国際会議場

⑤夕食会

つくば山水亭

⑶第２回

①**日時：**平成２８年３月１８日（金）　１２：５５～２０：４０

②**参加者：**イタリア・カナダ・フランス・アメリカ・ドイツ大使館職員、ＥＵ代表部職員、及び内閣府職員等　計１４名

	参加国／機関	参加者役職
1	イタリア	1）科学技術アタッシェ
2	カナダ	1）二等書記官（商務）
3	フランス	1）科学技術参事官 2）科学技術参事官補佐
4	アメリカ	1）二等書記官 2）経済担当書記官
5	ドイツ	1）科学技術担当参事官 2）秘書
6	ＥＵ	1）科学技術アドバイザー
7	内閣府	1）大臣官房審議官 2）参事官補佐（国際総括） 3）参事官補佐（国際担当） 4）参事官（国際担当）付
8	（公財）東京観光財団	1）主任

③**移動手段**

つくばエクスプレス秋葉原駅よりつくば駅まで臨時貸切便にて移動

つくば市内に於いては大型バス１台（貸切）にて移動

④**視察先**

つくば市内研究機関等視察

ＣＹＢＥＲＤＹＮＥ（株）、（国研）物質・材料研究機構（ＮＩＭＳ）、（国研）産業技術総合研究所（ＡＩＳＴ）、第５回科学の甲子園全国大会（つくば国際会議場）

⑤**夕食会**

レストラン　自然味工房（（有）筑波ハム）

2.2 開催までの取り組み

8 高級実務者会合の開催

参照　概要編Ｐ 60

(1)高級実務者会合の概要

実施主体：内閣府

開催期間：平成２８年４月４日（月）－４月５日（火）

場所：つくば国際会議場

開催目的：大臣会合における議論・共同声明を実務的に準備するため、議題ごとに研究開発の課題や国際協力の枠組み等について協議する。

参加者：各国・機関の高級実務者

(2)茨城･つくばのＰＲ

高級実務者会合において、茨城及びつくばの魅力発信のため、県産食材を使用した料理の提供や視察ツアーを実施した。

①食事会の開催

1)ネットワーキング・ディナー

実施主体：内閣府

開催日：平成２８年４月３日（日）

場　所：居酒屋大将別館

内　容：和風居酒屋での会合参加者同士の交流会。

2)夕食会

実施主体：協議会

開催日：平成２８年４月４日（月）

場　所：筑波山江戸屋

内　容：県産食材をふんだんに使用した和の会席料理。

3)コーヒーブレイクでの県産品の提供

実施主体：協議会

実施日：平成２８年４月４日（月）、５日（火）

場　所：つくば国際会議場　３階ホワイエ

内　容：アジェンダ間の休憩時間におけるドリンク・軽食の提供。県産フルーツや"パンの街・つくば"ならではの、各種菓子パン・ケーキ等の軽食。

②エクスカーションの開催

実施主体：協議会

日　時：平成２８年４月４日（月）　１５：１５～１８：００

参加者：高級実務者会合参加者　計１７名
（イタリア１名、カナダ１名、フランス２名、アメリカ３名、イギリス３名、ドイツ３名、ＥＵ２名、日本２名）

視察先：ＣＹＢＥＲＤＹＮＥ（株）、（大）筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構、筑波山神社

③その他

茨城県企業局の水道普及啓発用ペットボトル水（大臣会合開催ＰＲタグ付き）の提供

⑶ＴＩＡとの共催昼食ミーティング

ＴＩＡとの共催により、各国高級実務者とＴＩＡ中核５機関幹部との昼食ミーティングを実施し、意見交換が行われた。

実施主体：ＴＩＡ、協議会

日時：平成２８年４月５日（火）　１３：００～１４：３０

参加者：ア）高級実務者会合参加者　計１１名
（伊1名、加1名、米3名、英3名、EU 1名）
イ）ＴＩＡ中核５機関幹部等　計９名

場所：オークラフロンティアホテルつくば
本館　ジュピター（ウエスト）

昼食ミーティングの様子

9 食材等提供についての検討会

Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合において提供する食材について、生育状況の確認や収穫の時期等に係る打合せ及び PR や調理方法、実演方法に係る打合せを行った。

実施主体：茨城県販売流通課

開催日・場所	検討会	検討内容
平成２８年３月１７日(木) 於:八木沢木材(水戸市)	歓迎レセプションで使用する“県産木材を活用した一合枡”の作成に向けた検討会	歓迎レセプションにおいて、県産木材(ヒノキ)を活用した一合枡を作成するため、関係者間で作成方法やＰＲ等に係る打合せを実施。
平成２８年３月２８日(月) 於:JA ほこた 営農情報センター(鉾田市)	G7使用食材“特選イバラキング”の提供に向けた検討会	県のオリジナル品種「イバラキング(メロン)」の中でも、生産者を限定し、糖度や玉サイズ等の品質基準を満たした“特選イバラキング”を提供するため、関係者間で生育状況の確認や収穫の時期等に係る打合せを実施
平成２８年３月３０日(水) 於:いばらき蕎麦の会(常陸太田市)	歓迎レセプションでの“常陸秋そば”の実演(手打ち)に向けた検討会	全国のそば職人から最高峰の評価を得ているブランド品種「常陸秋そば」の実演(手打ち)による提供を行うため、関係者間で PR や実演方法等に係る打合せを実施
平成２８年４月２０日(水) 於:稲敷市役所(稲敷市)	G7使用食材“江戸崎かぼちゃ”の提供に向けた検討会	平成２７年１２月に、国の地理的表示保護制度(ＧＩ)の第１回目の品目(７品目のうちの一つ)として登録された“江戸崎かぼちゃ”を提供するため、関係者間で生育状況の確認、ＰＲや調理方法(冷製スープ)等に係る打合せを実施

2.2 開催までの取り組み

10 宿泊

(1)内閣府の宿泊業務に係る支援

内閣府の宿泊業務が円滑に進むよう、スイートルームを有する市内宿泊施設との連絡調整及び内閣府への紹介等の支援を行った。

①市内宿泊施設との連絡調整

対象：オークラフロンティアホテルつくば、ホテルグランド東雲、筑波山江戸屋、筑波山ホテル青木屋、つくばグランドホテル

内容：内閣府の決定事項の伝達等、スイートルーム確保に係る協力依頼

②内閣府への情報提供

内容：スイートルームを有する市内宿泊施設の価格・位置情報、Ｗｉ-Ｆｉ整備状況等の情報提供、宿泊施設の視察調整、価格情報の提供

(2)市内宿泊施設等への情報共有

Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合の開催内容、準備状況について情報共有を図るため、茨城県ホテル旅館生活衛生同業組合の組合員を対象に説明が行われた。

①実施主体

茨城県ホテル旅館生活衛生同業組合

②開催

1)**日時：**平成２７年１２月９日（水）１４：００～１５：３０

場所：ホテルグランド東雲

※外国人旅行者受入セミナーの前段として実施

2)**日時：**平成２８年1月１９日（火）１７：００～１８：００

場所：ホテル松島

③参加者

茨城県ホテル旅館生活衛生同業組合　つくば支部会員１８名

(3)つくばインバウンド誘致推進グループによるスイートルーム整備(参考情報)

同グループは国際会議等のインバウンド誘致に積極的に取り組んでおり、誘致決定以前から茨城県国際課事業（宿泊施設の客室を自らスイートルームに改修する経費を一部補助する）を活用し、スイートルーム８室を新たに整備することとしていた。

＜つくばインバウンド誘致推進グループ＞

	構成員
1	(株)筑波山江戸屋【グループ代表】
2	(株)青木屋
3	(株)つくばグランドホテル
4	(株)筑波学園ホテル(オークラフロンティアホテルつくば)
5	(株)ホテルグランド東雲
6	つくば国際会議場
7	(一社)つくば観光コンベンション協会

11 輸送

(1)内閣府の輸送業務に係る支援

各国大臣等の移動に燃料電池自動車ＭＩＲＡＩ（トヨタ自動車（株））が使用されることを契機とした移動式水素ステーションの整備（つくば市内）及びＭＩＲＡＩ運転ドライバーの紹介等を行った。

①移動式水素ステーションの整備（参考情報）

平成２８年３月２５日（金）、ＪＸエネルギー（株）が、旧つくば市消防本部跡地に移動式水素ステーションを開所した。

1)茨城県及びつくば市の取り組み

・事業者の誘致
・候補地選定に係る支援
・用地の整備及び無償貸与

2)設置場所

つくば市春日１丁目９番地

3)営業開始日

平成２８年３月２５日（開所式：平成２８年４月６日）

移動式水素ステーション

②ＭＩＲＡＩ運転ドライバーを内閣府に紹介

茨城県ハイヤー・タクシー協会に対する協力依頼とドライバー推薦依頼を行い、つくば市を中心とするタクシー会社から優良ドライバー１０名の推薦を受けた。ドライバーは実際にＭＩＲＡＩで大臣等の輸送に活躍した。

＜茨城県ハイヤー・タクシー協会から推薦を受けたドライバーの所属等＞

	会　社　名	住　　所	人数
1	神立ハイヤー(有)	土浦市神立中央１－１７－２７	１名
2	大曽根タクシー(株)	つくば市花畑３－１９－４	３名
3	(有)中央タクシー	つくば市今泉１４－８	１名
4	(有)上郷タクシー	つくば市上郷１２６４－１	１名
5	植松タクシー(有)	つくば市沼田２８２－１	１名
6	(有)松見タクシー	つくば市吾妻３－１０－１	２名
7	(有)大和タクシー	つくば市天久保１－７－１８	１名
合計			１０名

※推薦条件：県南交通圏で毎年実施している「運転者マナー向上研修(ロールプレイング方式)」で本選進出し表彰された運転者。

③駐車場の確保

大臣会合期間中の大臣車両、救急車両、運営スタッフ、メディア等の駐車場を確実に担保するため、近隣施設の駐車場を事前に確保し、内閣府に情報提供した。

・つくば都市交通センター　南４駐車場　１００台

2.2 開催までの取り組み

12 危機管理

(1) Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会テロ対策パートナーシップ会議

①**実施主体**：茨城県警察、協議会

②**日時**：平成２８年1月１４日（木）１０：００～１１：００

③**場所**：文部科学省研究交流センター２階　国際会議場

④**目的**：大臣会合に対するテロ等不法行為を未然に防止するため、関係機関が緊密に連携して各種対策を推進

⑤**参加者**：協議会会員機関、税関、入国管理局、大規模集客施設等

(2) 茨城県警察による訓練

平成２７年１０月以降、県警によりサミット及び科学技術大臣会合警備に向けた訓練を随時実施。

実施日	訓練名称
平成２７年１０月２２日(木)	茨城県警察警衛・警護要員総合訓練
平成２７年１２月１５日(火)	伊勢志摩サミット等警備に向けた茨城県警察総合警備訓練
平成２７年１２月２４日(木)	Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合警備に向けた官民一体によるテロ対策総合合同訓練（市消防本部との合同訓練）
平成２８年1月２７日(水)	伊勢志摩サミット等警備に向けたテロ対処合同訓練
平成２８年2月２４日(水)	Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合に向けたソフトターゲットにおけるテロ対処訓練（イーアスつくば）
平成２８年3月１６日(水)	Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合に向けたソフトターゲットにおけるテロ対処訓練（イオン水戸内原）
平成２８年4月6日(水)	ニューポートひたちなかファッションクルーズにおけるテロ対策合同訓練
平成２８年4月１３日(水)	茨城県警察総合警備訓練
平成２８年5月１０日(火)	ケーズデンキスタジアム水戸におけるテロ対策訓練
平成２８年5月１４日(土)	Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合警備部隊等出動式

⑶ 消防関連の取り組み

①テロ対策対応訓練

実施主体：つくば市消防本部、茨城県消防安全課
期間：平成２８年４月１日（金）－５月１１日（水）
場所：つくば市中央消防署、茨城県庁
内容：テロが疑われる災害が発生したことを想定した総合訓練。他市消防本部に応援要請を行うための通信訓練も併せて実施。

訓練風景１

訓練風景２

②消防特別査察

実施主体：つくば市消防本部
期間：平成２８年２月２４日（水）－５月１１日（水）
場所：つくば国際会議場、オークラフロンティアホテルつくば、産業総合研究所等の市内９６施設
内容：消防法に基づき，大臣会合関連行事に使用される施設や付近の危険物施設等を対象に、消防用設備の設置状況、危険物の管理状況等に係る特別査察を実施

③消防特別巡回活動

実施主体：つくば市消防本部
期間：２８年５月９日（月）－５月１７日（火）
場所：つくば市内全域
内容：消防本部（53 回）及び消防団（１３８回）が市内全域を対象に巡回活動を実施

④消防特別配備

実施主体：つくば市消防本部
期間：平成２８年５月１５日（日）－５月１７日（火）
場所：つくば国際会議場・歓迎レセプション会場・晩餐会会場・各エクスカーション会場
内容：消防車１台・救急車２台・特殊災害対応車２台を増台して消防特別警戒体制を整備。救急車は大臣会合関連行事が実施された施設に常駐配置。

5 月 15 日（日） レセプション会場

5 月 17 日（火） エクスカーション会場

(4)医療救護関係

①ＮＢＣ災害及びテロ対策研修会の開催

実施主体：主催　茨城県医療対策課、協議会
共催　筑波大学付属病院、（公財）日本中毒情報センター

日時：平成２８年３月２６日（土）１０：００～１７：３５

場所：（大）筑波大学　臨床講義室Ａ

目的：ＮＢＣ災害（※）及びテロ等が発生した場合に迅速に対応するため、罹災者の受入機関となる医療従事者向けに研修を実施。

参加：茨城県内の医師・看護師・放射線技師、消防・警察関係者　計１４１名
※ＮＢＣ災害：核（ｎｕｃｌｅａｒ）、生物（ｂｉｏｌｏｇｉｃａｌ）、化学物質（ｃｈｅｍｉｃａｌ）による特殊災害

研修会の様子

放射線測定デモ

化学防護服着用デモ

化学防護服着用デモ

化学防護服着用デモ

②Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合に伴う感染症強化サーベイランス

実施主体：茨城県保健予防課

期間：平成２８年５月８日（日）－５月３１日（火）(２４日間)

内容：県内の感染症の発生状況を解析・評価し、日報としてまとめ関係機関へ送付

送付先：茨城県消防安全課、茨城県医療対策課、茨城県警察警備課、茨城県各保健所、茨城県衛生研究所、茨城県つくば保健所管内医療機関、つくば市消防本部、つくば市

③Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合に係る感染症対応訓練

実施主体：茨城県つくば保健所

日時：平成２８年４月２８日(木)９：００～１５：００

場所：茨城県つくば保健所

内容：患者発生の探知から医療機関搬送までの対応を迅速に行うため、大臣会合関連事業において２類感染症であるＭＥＲＳの疑い患者が発生したことを想定した訓練を実施。
また、患者移送時に必要となる防護服の着脱及び移送車のストレッチャーの昇降について所内全職員を対象に実施した。

訓練の様子①

訓練の様子②

⑸災害対応関係

①現地連絡員の派遣

実施主体：茨城県防災・危機管理課、つくば市危機管理課

期間：平成２８年５月１４日（土）－１７日（火）

場所：つくば国際会議場、茨城県庁、つくば市役所

内容：大規模災害・突発重大事案が発生した場合に備え、大臣会合開催中におけるつくば国際会議場への連絡員の派遣、本庁待機員の増員を実施

②警備強化

実施主体：つくば市（会場周辺）、茨城県（県庁舎）

期間：平成２８年５月１４日（土）－１７日（火）等

内容：民間警備企業、防犯・環境美化サポーターの活用により、会場周辺及び県庁舎の警備を強化

民間企業によるセグウェイを使用した公道巡回の実証実験

ドローン検知システムの設置状況

気球による監視状況

③避難訓練

実施主体：つくば市（危機管理課、竹園西小学校）、つくば中央警察署
日時：平成２８年４月１５日（金）　９：００～１１：００
場所：竹園西小学校～つくばカピオ
内容：つくば国際会議場周辺で不審物が発見されたとの想定で、全校生徒８００人が、竹園西小学校からつくばカピオまで移動する避難訓練を実施。

④インフラ関係

実施主体：茨城県・つくば市下水道課、東京電力、東京ガス等
日時：平成２８年２月以降
内容：不測の事態に備えた対応職員の待機、監視強化、点検活動を実施

⑤交通規制の周知

日時：平成２８年４月２６日（火）　１０：００～１２：００
実施主体：つくば市、茨城県警察交通規制課
場所：つくば国際会議場周辺
内容：つくば国際会議場周辺の事業者に対し、大臣会合開催中のつくば国際会議場周辺の交通規制についてのチラシを作成し、交通規制の周知

13 環境整備

(1)道路等の舗装工事の実施

つくば市道道路舗装工事及びペデストリアンデッキ舗装工事を実施した。
①**実施主体：**つくば市
②**期間**：平成２７年１２月４日（金）－平成２８年３月１４日（月）
③**場所**：つくば市竹園一丁目、つくば市吾妻一丁目

(2)通信設備の整備

Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合に際し、現在の電波状況を改善し、より安定した通信環境を整えるため、携帯電話事業者である２社が、アンテナ及びケーブル等の設置を行った。
①**実施主体：**（株）ＮＴＴドコモ、ソフトバンク（株）
②**実施日：**（ＮＴＴドコモ）平成２８年２月２２日（月）
（ソフトバンク）平成２８年２月２６日（金）
③**場所：**つくば国際会議場

(3)違反広告物の撤去

Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合開催に伴い、業務委託により、国際会議場周辺において、つくば市屋外広告物条例に違反している、はり紙、はり札等、広告旗、立看板等の撤去を行った。
①**実施主体：**つくば市都市計画課
②**期間：**平成２８年４月１日（金）－５月３１日（火）
③**場所：**つくば市内

(4)会期中における道路工事自粛要請

対象道路の道路工事（占用工事等）を会期中は自粛するよう関係機関（茨城県建設業協会等）に通知した。

①**実施主体**：協議会

②**自粛要請期間**：平成２８年４月中旬－５月１７日（火）

③**対象道路**：茨城県土浦土木事務所が管理する道路

14 地域住民への対応

(1)地域住民に対する説明会

地域住民のＧ７茨城・つくば科学技術大臣会合に対する理解促進及び協力体制の構築のため、説明会等を行った。

実施主体	開催日	場所	参加者	内容
つくば市	平成２８年１月２２日（金）	つくば市役所会議室２０１	つくば市区会連合会役員２１名	つくば市区会役員へＧ７大臣会合に係る警備等について説明
つくば市谷田部地区区会連合会	平成２８年４月２２日（金）	つくば市役所会議室２０１	１２４名	つくば市谷田部地区区会連合会総会において、Ｇ７大臣会合の概要及び交通規制について説明
つくば市桜地区区会連合会	平成２８年４月２６日（火）	ホテルグランド東雲	５３名	つくば市桜地区区会連合会総会において、Ｇ７大臣会合の概要及び交通規制について説明
つくばセンター地区活性化協議会	平成２８年４月２７日（水）	つくばイノベーションプラザ大会議室	４０名	つくばセンター地区活性化協議会総会において、Ｇ７大臣会合の概要及び交通規制について説明

(2)開催告知チラシのつくば市内全戸配布

Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合開催のチラシを、市報つくば４月１日号に折り込みで全市民に周知した。さらに竹園ハウス住民（外国人研究者）に対して、会合開催時における周辺道路の混雑予想と係る理解・協力についてのチラシを戸別に配付した。

①**つくば市内全域での配付**

実施主体：つくば市

配布日：平成２８年４月１日（金）

配布数：９７，６９８部

②**竹園ハウス住民（外国人研究者）**

実施主体：茨城県警察

配布日：平成２８年４月２０日（水）

配布世帯：３６世帯

配付チラシ（Ａ４判　両面）

(3)交通規制情報の周知

Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合開催期間中の交通規制情報を周知するため、チラシを配布、掲出した他、横断幕、看板を設置した。

①**実施主体**：茨城県警察

②**「マイカー自粛等交通総量抑止のお願い」チラシの配布・掲出**

・県警ホームページ及び県、市広報紙の掲載。県内大型ショッピングセンター、交通関係機関、

2.2 開催までの取り組み

団体への掲載を依頼（平成２８年４月）

・つくば市　約６５，０００世帯への新聞折り込み配布（平成２８年５月６日（金））

③「つくば市内交通規制詳細図」の配布

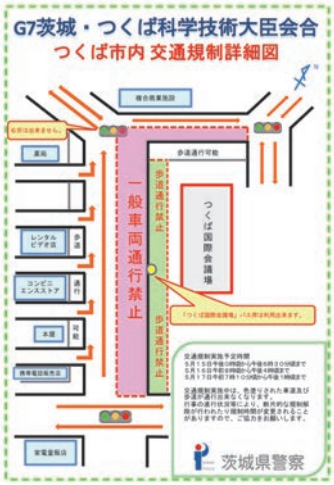
・つくば国際会議場付近　約２５０件に配布（平成２８年５月）

④横断幕・看板の設置

・交通規制予告横断幕　歩道橋及び跨道橋　９箇所１０枚掲出

・交通規制周知看板　　周辺交差点及び遊歩道　４５箇所１００枚設置

マイカー自粛等交通総量抑止のお願い



つくば市内交通規制詳細図

看板

横断幕

15 地元住民による開催支援

参照　概要編Ｐ 62

(1)会場周辺の環境美化活動

会場周辺を美化して大臣等を迎えるとともに、機運醸成を図るため、つくば市民、小・中学生、地元関係機関、団体等による清掃活動を実施した。

①実施主体

つくば市民、学園地区小・中学校、つくば市きれいなまちづくり実行委員会他

②実施日・場所・参加者

1) つくば市職員等による環境美化ボランティア活動

実施日：平成２８年３月５日（土）及び３月２６日（土）　２回実施

場所：研究学園中心地区

参加者：１回目　４６８名

つくば市立竹園東中学校９０名、つくばＡＺＵＭＡ学園（吾妻中学校、吾妻小学校）１５名含む

２回目　６８１名

つくば市立竹園東中学校９０名、つくばＡＺＵＭＡ学園１００名、つくば洞峰学園（谷田部東中学校、二の宮小学校）１００名、つくば市立春日学園義務教育学校７０名含む

2) つくば市内一斉清掃活動

実施日：平成２８年５月７日（土）

場所：つくば市内全域

参加者：８４３名

つくば竹園学園、つくばＡＺＵＭＡ学園、手代木光輝学園他約４５０名、つくば市きれいなまちづくり実行委員会約３０名含む。

その他、賛同区会７０区会、６，９５４世帯（人数カウント不可）が参加

(2)中学生による「おもてなしメッセージ」の掲示

平成２８年１月に開催された「つくば市中学生未来議会」で、大臣会合に関連して来訪する方々に〝おもてなしの気持ちを表現したい〟とつくばの良さを伝える横断幕掲示の提案があったことから、市内１５学園から募った大臣へのおもてなしメッセージで横断幕を製作し、市内各所に掲示した。

①実施主体：つくば市教育局

②掲示期間・場所：平成２８年４月－５月　つくば市役所敷地内

平成２８年６月－平成２９年３月　つくば市内各所

③参加者：つくば市内中学生

(3)ウェルカムフラワーCity つくば　春の花壇づくり

Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合の開催に合わせ、市民の歓迎の機運を高めるとともに、花で景観を美化し、おもてなしをするため、市民・企業・行政の三者協働で花植え活動を実施した。

①実施主体：つくば市、ウェルカムフラワー City つくば実行委員会

②日時：平成２８年４月２３日（土）９：００～１０：００

③場所：つくばセンター地区（つくばセンター広場、つくば中央公園、つくば市立中央図書館、

つくば駅周辺、つくばカピオ周辺、つくば国際会議場周辺）

④参加者：２００名

⑤備考：つくば国際会議場前の沿道に設置したプランター２０個は、筑波ライオンズクラブ、つくば西ライオンズクラブ、つくば中央ライオンズクラブ、つくばＯＡＫライオンズクラブからの協賛金を活用した。

16 民間企業等による協賛等

協議会では、Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合を通じて、茨城・つくばの魅力を国内外にＰＲする各種事業を実施するため、民間企業･各種団体の皆様に１口５万円として協賛金の募集を実施した。

その結果、県内外の民間企業・各種団体の皆様方から多くのご賛同をいただき、総額１７，０１１千円の協賛金を頂戴した。

(1) ご協賛いただいた企業様・団体様［敬称略］

①ダイヤモンドパートナー（２００万円（４０口）以上）

（株）常陽銀行（※１）、（株）筑波銀行（※２）、ＪＡグループ茨城、関彰商事（株）（※３）

②プラチナパートナー（１００万円（２０口）以上）

東京海上日動火災保険（株）、東京ガス（株）、関東鉄道（株）、（株）カスミ、凸版印刷（株）

③ゴールドパートナー（３０万円（６口）以上）

水戸信用金庫、茨城県信用組合、日本アイ・エス・ケイ（株）、
（一財）茨城県環境保全事業団、一誠商事（株）、（株）東京電機、
筑波都市整備（株）、大和ハウス工業（株）、水戸証券（株）、
茨城トヨタ自動車（株）、首都圏新都市鉄道（株）（※４）、
日清食品ホールディングス（株）（※５）、ライトオン（株）（※６）

④オフィシャルパートナー（５万円（１口）以上）

茨城日産自動車（株）、キリンビールマーケティング（株）（※７）、
（株）つくば研究支援センター、東日本電信電話（株）　茨城支店、
ＮＴＴアクセスサービスシステム研究所、連合茨城、
（一財）つくば都市交通センター、（株）カドヤカンパニー、
栗田アルミ工業（株）、国際ロジテック（株）、（株）秋山工務店、
（株）グル―ビー、極東製薬工業（株）、（株）ＰＦＵ、助川電気工業（株）、
つくばシティロータリークラブ、つくば学園ロータリークラブ、
筑波ライオンズクラブ（※８）、つくば西ライオンズクラブ（※８）、
つくば中央ライオンズクラブ（※８）、つくばＯＡＫライオンズクラブ（※８）

【その他：役務の提供】

※１　(株)常陽銀行：協議会事務局に職員を１名派遣。県庁支店シャッターにＰＲ広告印刷、県庁支店内におけるカウントダウンＰＲ。

※２　(株)筑波銀行：協議会事務局に職員を１名派遣。

※３　関彰商事(株)：協議会事務局に職員を１名派遣。協議会事務局に車両４台無償貸与、ハイスクール科学技術サミット参加者に対する図書カードの無償提供。

※４　首都圏新都市鉄道(株)：大使館向けツアー時の特別列車運行・往復乗車券無償提供等。

※５　日清食品ホールディングス(株)：プレスセンター用にカップヌードル計１，０１６食無償提供。

※６　ライトオン(株)：スタッフジャンパー１００着無償提供。

※７　キリンビールマーケティング(株)：ペットボトル緑茶１９２本無償提供（大使館向けツアー、大臣会合時におけるオプショナルエクスカーション及びメディア向けツアー時に使用）。

※８　つくば市内４ライオンズクラブ：Ｇ７チラシ２，０００枚印刷・配布、年次大会パンフレットへのＧ７チラシ挿入。プランター２０個（つくば国際会議場前の沿道に設置）

（株）常陽銀行：県庁支店シャッターＰＲ広告

関彰商事（株）：協議会事務局に無償貸与いただいた車両

首都圏新都市鉄道（株）：大使館向けツアーにおける貸切車両

ライトオン（株）：協議会職員らが着用したスタッフジャンパー

日清食品ホールディングス(株)：メディアセンターにおけるカップヌードル

2.2 開催までの取り組み

(2) 協賛金贈呈式

ダイヤモンドパートナー様、プラチナパートナー様を対象に、協賛金贈呈式を開催した。

①実施主体：協議会

②第１回協賛金贈呈式

日時：平成２８年２月４日（木）１４：１５～１４：３０

場所：茨城県庁５階　庁議室

出席者：

協賛企業／(株)常陽銀行　専務取締役　坂本　秀雄　様

(株)筑波銀行　取締役頭取　藤川　雅海　様

ＪＡグループ茨城　専務理事　秋山　豊　様

関彰商事(株)　代表取締役　関　正樹　様

東京海上日動火災保険(株)　常務執行役員　大谷　弘之　様

協議会／会長　茨城県知事　橋本　昌

③第２回協賛金贈呈式

日時：平成２８年３月２８日（月）１４：００～１４：１０

場所：茨城県庁５階　庁議室

出席者：

協賛企業／東京ガス（株）　茨城事業部長　藤本　正之　様

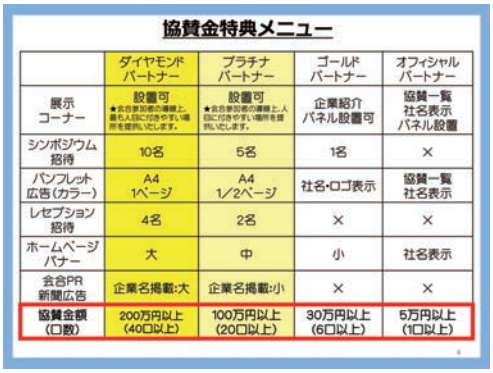
関東鉄道（株）　取締役社長　酒寄　博司　様

（株）カスミ　代表取締役社長　本郷　晴重　様

協議会／会長代理　茨城県副知事　山口　やちゑ

第１回協賛金贈呈式

第２回協賛金贈呈式



協賛金特典メニュー

	ダイヤモンドパートナー	プラチナパートナー	ゴールドパートナー	オフィシャルパートナー
展示コーナー	設置可 ★会合参加者の導線上、最も人目につきやすい場所を提供いたします。	設置可 ★会合参加者の導線上、人目につきやすい場所を提供いたします。	企業紹介パネル設置可	協賛一覧社名表示パネル設置
シンポジウム招待	10名	5名	1名	×
パンフレット広告（カラー）	A4 1ページ	A4 1/2ページ	社名・ロゴ表示	協賛一覧社名表示
レセプション招待	4名	2名	×	×
ホームページバナー	大	中	小	社名表示
会合PR新聞広告	企業名掲載:大	企業名掲載:小	×	×
協賛金額（口数）	200万円以上（40口以上）	100万円以上（20口以上）	30万円以上（6口以上）	5万円以上（1口以上）

協賛金依頼時に使用した資料（抜粋）

17 民間企業等からの無償提供・貸与

Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合及びその他のイベント等において、民間企業・各種団体より、無償提供・貸与を受けた。（資料編　Ｐ１６３に掲載した協賛企業からの無償提供・貸与を除く）。

＜大臣会合に提供された物品等＞

提供元	提供品名	数量	使用先
(株)伊藤園	ｅｖｉａｎ ５００ミリリットル ペットボトル	４８０本	各国・機関代表団に提供 G7茨城・つくば科学技術大臣会合特別展一般公開において来場者へ配布
茨城県酒造組合	樽酒	２樽	歓迎レセプションにおいて、鏡割りに使用
茨城県酒造組合	日本酒古酒	１０本	歓迎レセプションにおいて、各国・機関代表団に提供
茨城県陶芸美術館	展示台	７台	Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合特別展の伝統工芸展示において笠間焼の展示台として使用（※貸与）
茨城県企業局	いばらきの名水 ５００ｍｌペットボトル	１，００８本	メディアセンターにおいて報道関係者に提供 G7茨城・つくば科学技術大臣会合特別展一般公開において来場者へ配布
(一社)日本民営鉄道協会	鉄道沿線観光マップ	８２４部	Ｇ７開催記念シンポジウム来場者に配布
(株)フジキン　つくば先端事業所	お土産セット	約１５セット	メディア向けツアーにおいて、報道関係者にお土産として配布
富士フィルム(株)	アスタリフト ベーシックトライアルキット	５０個	各国・機関代表団に提供
キリンビバレッジ(株)	アスタリフト ウォーター ５００ミリリットル ペットボトル	１２０本	各国・機関代表団に提供

＜その他のイベントにおいて提供された物品等＞

提供元	提供品名	数量	使用先
茨城県企業局	いばらきの名水 ５００ミリリットル ペットボトル	１，５００本	県内イベントにおいて配布（１，０００本） ハイスクール科学技術サミット参加者・傍聴者に配布（３００本） 高級実務者会合に参加した各国・機関の高級実務者に提供（２００本）
英公社(株)	観光地図「わお！マップ　つくば・土浦エリア」	６００部	県内イベント等において配布
(一社)日本民営鉄道協会	鉄道沿線観光マップ	２，０００部	Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合特別展一般公開において配布 つくば市内の観光案内所等に設置
合同会社　時空	intelux（インテルクス）	１台	平成２８年２月２５日（大臣会合８０日前）より、カウントダウンボードとして内閣府に設置（※貸与）
(株)マウスコンピューター	スティックＰＣ	１台	平成２８年２月２５日（大臣会合８０日前）に設置したカウントダウンボードのプログラム用ＰＣとして使用（※貸与）

2.3 広報・ＰＲ

1 イベント等でのＰＲ

参照　概要編Ｐ 64

大臣会合開催の機運醸成を図るため、県内のイベント等においてチラシの配布や、ＰＲブースの出展等を行った。

実施主体：協議会

実施日	催事名	開催場所	ＰＲ内容
平成２７年８月１９日(水)	イノベーションキャンパス in つくば ２０１５(第１部)	つくば国際会議場	・チラシの配布
平成２７年８月２２日(土)、８月２３日(日)	まつりつくば	つくばセンター地区(土浦学園線～大清水公園)	・横断幕パレードの実施 ・缶バッジ作り等
平成２７年１０月２１日(水)	関東地方知事会議	つくば国際会議場	・チラシの配布 ・ティッシュの配布 ・水の配布 ・パネル展示
平成２７年１０月２４日(土)、１０月２５日(日)	茨城をたべよう収穫祭	砂沼広域公園	・缶バッジ作り ・チラシの配布 ・ティッシュの配布 ・水の配布 ・パネル展示
平成２７年１０月２６日(月)	ハイレベルフォーラム　ｉｎ　つくば	(国研)産業技術総合研究所	・チラシの配布 ・ティッシュの配布 ・水の配布 ・パネル展示
平成２７年１０月３１日(土)、１１月１日(日)	つくばサイエンスコラボ２０１５	つくばカピオ	・缶バッジ作り ・記念写真作り ・ティッシュの配布 ・チラシの配布 ・パネル展示
平成２７年１１月３日(火)	茨城大学地域創生シンポジウム	(大)茨城大学	・ティッシュの配布 ・チラシの配布
平成２７年１１月７日(土)、１１月８日(日)	平成２７年度つくば市民文化祭	つくばカピオ	・ティッシュの配布
平成２７年１１月２１日(土)	つくば光の森２０１５点灯式	つくばセンター広場	・ティッシュの配布 ・水の配布 ・チラシの配布
平成２７年１１月２２日(日)	第３５回つくばマラソン	(大)筑波大学	・ティッシュの配布 ・水の配布 ・チラシの配布 ・缶バッジ作り ・パネル展示
平成２７年１２月２日(水)－１２月５日(土)	２０１５　国際ロボット展 ～ＲＴロボットと共に創る未来～	東京ビッグサイト 東ホール	・ポスター掲出 ・チラシ配布
平成２８年１月７日(木)	明日の茨城づくり新春の集い	水戸プラザホテル	・ティッシュの配布 ・チラシの配布 ・パネル展示
平成２８年２月５日(土)	平成２８年茨城県人会連合会新年賀詞交歓会	グランドアーク半蔵門	・ティッシュの配布 ・チラシの配布 ・パネル展示
平成２８年２月２２日(月)	平成２８年新春経済講演会・賀詞交歓会	三の丸ホテル	・チラシの配布 ・パネル展示
平成２８年２月２５日(木)	第５回科学の甲子園全国大会	つくば国際会議場	・チラシの配布 ・パネル展示
平成２８年３月２８日(日)	大好きいばらきネットワーカー委嘱状交付式	市町村会館	・チラシの配布 ・概要説明
平成２８年４月２日(土)	大好きいばらきふれあいまつり	三の丸庁舎	・ポスター掲出 ・チラシの配布

平成２８年４月７日(木)	茨城産業人クラブ経済講演会	ホテルグランド東雲	・ポスター掲出 ・チラシの配布
平成２８年４月８日(金) －４月１０日(日)	みえ伊勢志摩フェア	イオンスタイルレイクタウン	・ポスター掲出 ・チラシの配布

2 Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会ポスターデザインの公募

Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合の開催を周知するとともに、茨城及びつくばの魅力をＰＲするためのポスターを募集した。

(1)実施主体

協議会

(2)募集のテーマ

「茨城・つくばの魅力」

(3)応募資格

なし

(4)募集期間

平成２７年１１月２４日（火）－平成２８年１月１５日（金）

(5)賞

最優秀賞　　１点　　賞金１０万円と賞品 (いばらきプレミアム商品カタログ)

優秀賞　　１０点　賞品 (いばらきプレミアム商品カタログ)

(6)応募状況

応募数　　３５作品　（県内より３０点、県外より５点）

＜応募作品の内訳＞

応募者の年齢	作品数
１０代	8
２０代	3
３０代	5
４０代	7
５０代	4
６０代	5
７０代	3

応募者の職業	作品数
小学生	1
中学生	2
高校生	5
大学生(留学生)	1
デザイナー	8
その他(会社員、主婦、自営業、その他の職業)	１８

応募者の住所	作品数
茨城県(内、つくば市　１０点)	３０
他県(東京都より２作品、兵庫、山形、秋田県より各１作品)	5

(7)選考方法

デザインや科学技術の専門家等で構成する選考委員会による審査を経て、受賞候補作品１１点を決定し、Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会会長である橋本知事により、最優秀賞１点と優秀賞１０点を決定した。

＜Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会ポスターデザイン選考委員会＞

①開催日：平成２８年１月２２日（金）

②選考委員：次ページ参照

2.3 広報・PR

＜選考委員一覧＞　　（敬称略・順不同）

No.	区分	所属機関・団体及び役職　※	氏名
1	デザイン	(大)筑波大学　准教授	原　忠信
2		(有)つくばインキュベーションラボ　代表取締役	島袋　典子
3	科学	(公財)つくば科学万博記念財団　理事長	田中　敏
4	行政	内閣府　政策統括官　(科学技術・イノベーション担当)付　参事官補佐(国際担当)	須田　貴保子
5		茨城県　広報監	取出　新吾
6		つくば市　市長公室　副広報監	入沢　弘子

※委員会開催時点

(8)受賞者

①最優秀賞受賞者

茨城県　牛久市　本木　俊太郎さん　グラフィックデザイナー

最優秀賞受賞作品

②優秀賞受賞者

茨城県　ひたちなか市　遠藤　瞳さん　茨城県立笠間高校３年生
茨城県　水戸市　小沼　茉莉恵さん　茨城県立笠間高校３年生
茨城県　つくば市　韓　優美さん・関口　智香さん　つくば市立手代木南小学校６年生
茨城県　東海村　菊池　美津子さん　自営業
茨城県　取手市　坂上　勲さん　アートディレクター
茨城県　つくば市　(株)パルデザイン　デザイン業
茨城県　石岡市　根本　祥子さん　会社員
茨城県　つくば市　福富　鈴子さん　会社員
茨城県　つくば市　堀　聖司さん　デザイン業
茨城県　つくば市　李　りなさん　(大)筑波大学留学生

※職業等は受賞時点のもの

3 １００日前イベントの開催

参照　概要編Ｐ 65

大臣会合１００日前を記念して、Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会ポスターデザインの最優秀賞授賞式及びカウントダウンボード除幕式を行った。

⑴ 実施主体

協議会

⑵ 日時

平成２８年２月５日（金）９：３０～１０：００

⑶ 場所

つくば国際会議場　大会議室１０２

⑷ 内容

Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会ポスターデザイン最優秀賞授賞式

Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会カウントダウンボード除幕式

⑸ 参加者

①最優秀賞受賞者

本木　俊太郎さん（茨城県牛久市在住　グラフィックデザイナー）

②協議会関係者

市原　健一　つくば市長（Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会　副会長）

楠田　幹人　茨城県副知事（Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会　副会長）

吉田　茂　つくば国際会議場副館長

4 ハイスクール科学技術サミットの開催

参照　概要編Ｐ 66

大臣会合開催機運を盛り上げるとともに、中高生の科学への興味関心を高め、次世代を担う若者の声を発信するため、ハイスクール科学技術サミットを開催した。

(1)実施主体

協議会

(2)勉強会及び事前準備

ハイスクール科学技術サミットに向け、事前勉強会を実施した。

①事前勉強会　第１回

日時：平成２７年１２月２４日（木）１３：００～１５：３０
場所：茨城県立竹園高校 会議室
参加者：高校生
内容：ハイスクール科学技術サミットの目的及び今後の流れの説明
「科学技術」と「人間生活」について現状の課題の抜き出し

②事前勉強会　第２回

日時：平成２８年1月１８日（月）１５：３０～１７：３０
場所：茨城県立並木中等教育学校 会議室
参加者：高校生
内容：各校の小テーマについて協議

③事前勉強会　第３回

日時：平成２８年1月２８日（月）１５：３０～１７：００
場所：茗渓学園中学校高等学校 会議室
参加者：高校生及び留学生等
内容：留学生に対して全体テーマ及び各校の小テーマを説明して意見交換

④前日準備

日時：平成２８年２月９日（月）１４：３０～１８：３０
場所：茗渓学園中学校高等学校 会議室

(3)ハイスクール科学技術サミット

①実施主体：協議会
②日時：平成２８年２月９日（火）、１０日（水）
③会場：つくば国際会議場　中ホール３００
④概要：２月９日（火）参加者交流会
２月１０日（水）模擬サミット（使用言語：英語）
⑤参加者：２２名

1)日本

茨城県立竹園高等学校、茨城県立土浦第一高等学校、茨城県立並木中等教育学校、茗渓学園中学校高等学校（各校２名）
※つくば市近隣のスーパーグローバルハイスクール、スーパーサイエンスハイスクール

2)日本以外のＧ７構成国、筑波大学の留学生等　(各国２名)

⑥傍聴者：１５７名

地元つくば市内の中学生約３０名と、スーパーグローバルハイスクール、スーパーサイエンスハイスクール指定校の高校生約７０名が傍聴。

また、大使館関係者、内閣府、教育関係者、サブテーマに関係するつくば市内の研究・教育機関から傍聴者を招待。

⑦内容

1）第１部

科学技術に関連する４つのサブテーマについて、日本の高校生たちが発表を行い、それに対して留学生たちが意見を述べた。

サブテーマ①　医療と科学技術

サブテーマ②　新エネルギー

サブテーマ③　食糧と科学技術

サブテーマ④　宇宙開発と工学

2）第２部

サブテーマを踏まえて「科学技術は人類を幸せにできるのか」をメインテーマとしたディスカッションを行った。

⑧成果の発信

集約した意見を「次世代を担う若者からの提言」としてまとめ、平成２８年５月１５日（日）のＧ７茨城・つくば科学技術大臣会合開催記念シンポジウムにおいて各国大臣に手交した。

⑨記念品、配布物

	配布対象
ハイスクール科学技術サミットプログラム	ハイスクール科学技術サミット参加者及び傍聴者
付箋	ハイスクール科学技術サミット参加者及び傍聴者
ボールペン	ハイスクール科学技術サミット参加者
いばらきの名水（ペットボトル水・Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合開催ＰＲタグ付き）	ハイスクール科学技術サミット参加者及び傍聴者

G7茨城・つくば科学技術大臣会合記念 ハイスクール科学技術サミット　議事録要旨（日本語仮訳）

参照　資料編P 246

【開催概要】

日時：平成２８年２月１０日（水）１３：３０～１６：３０
会場：つくば国際会議場　中ホール３００

【プログラム】

◆開会宣言及び司会：飯塚　彩加さん、張替　基希さん
（茨城県立並木中等教育学校）
◆主催者あいさつ
橋本　昌　茨城県知事（Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会　会長）
市原　健一　つくば市長（Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会　副会長）
◆来賓あいさつ
島尻　安伊子　内閣府特命担当大臣（科学技術政策）／ビデオメッセージ
◆来賓紹介
◆ハイスクール科学技術サミット
(1) 自己紹介／アドバイザー紹介
(2) 議題
テーマ①「医療と科学技術」
発表者：浅野　可耀さん、近藤　春央さん（茨城県立竹園高等学校）
コメンテーター：久武　幸司　（大）筑波大学　教授
芳賀　克彦　（独）国際協力機構 筑波国際センター所長
テーマ②「新エネルギー」
発表者：板橋　茜さん、上田　亮さん（茨城県立土浦第一高等学校）
コメンテーター：金山　敏彦　（国研）産業技術総合研究所　副理事長
テーマ③「食料と科学技術」
発表者：稲垣　瑠奈さん、由井　貴大さん（茨城県立並木中等教育学校）
コメンテーター：岩永　勝（国研）国際農林水産業研究センター　理事長
塩谷　和正（国研）農業・食品産業技術総合研究機構　理事
テーマ④「宇宙開発と工学」
発表者：島野　史子さん、八戸　琢磨さん
（(学）茗渓学園　茗渓学園中学校・高等学校）
コメンテーター：今井　良一　（国研）宇宙航空研究開発機構　理事、
筑波宇宙センター所長
(3) ディスカッションとまとめ
アドバイザー：宮本 宏　つくば国際会議場 コーディネーター
(4) 来賓感想
笹井　弘之　内閣府　政策統括官（科学技術・イノベーション担当）付参事官（国際担当）
トム・クチンスキー氏　ＥＵ代表部　科学技術部

※サミット参加留学生：
ギズブレックト・マーク・ピーター・ロバート（カナダ）
フランシス・マサンナル（カナダ）
マニョン・エリ（フランス）
ギオム・フブリエ（フランス）
アナスタシア・ベンダー（ドイツ）
ホルガー・マイヤー（ドイツ）
ヴィゼンティン・フランチェスコ（イタリア）
エヴァ・タグリアフェリ（イタリア）
ロッシーニ・グルング（イギリス）
ロレンス・デイビス（イギリス）
エミリー・ヘレン・バートレット（アメリカ）
ジェイソン・トンプソン・ライアン（アメリカ）
エマ・ミックルライト（ＥＵ）
マイケル・ステインズ（ＥＵ）

【発表要旨】

◆開会宣言
飯塚　彩加さん、張替　基希さん（茨城県立並木中等教育学校）
このサミットは、中高生の科学への興味関心を高め、次世代を担う若者の声を発信することが目的だ。「科学技術は人類を幸せにすることができるか」というテーマのもと、「医療と科学技術」「新エネルギー」「食料と科学技術」「宇宙開発と工学」の４つのサブテーマについてディスカッションを行う。本日の意見は集約の上、５月のＧ７茨城・つくば科学技術大臣会合において、若者からの提言として各国の科学技術大臣に伝えられる。

◆主催者あいさつ／来賓あいさつ
橋本　昌　茨城県知事
（Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会　会長）
筑波は日本を代表する研究開発拠点であり、２万人を超える研究者がナノテクノロジーやロボット、ライフサイエンス等の分野で最先端の研究に取り組んでいる。茨城県はこの環境を活かして、イノベーションキャンパス、国際科学オリンピックの国内大会や、科学の甲子園全国大会等イベントを開催し、科学技術を担う人材の育成を行っている。サミットも次世代を担う若者達の科学への興味や関心を高めるものであり、同時に５月のＧ７茨城・つくば科学技術大臣会合に向けた提言を議論する場でもある。大臣会合に向けて大きな成果が生まれることを期待している。

市原　健一　つくば市長
（Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会　副会長）
１９６３年に始まる筑波研究学園都市の建設から半世紀、つくば市は３００近い研究機関が集積し、約２万人の研究者が最先端の研究を行うサイエンスシティーへと発展してきた。現在もモビリティロボット実験特区等、町全体で実証実験に取り組み、科学技術の発展や環境問題等の様々な課題解決に貢献することを目指している。今回のサミットのテーマは「科学技術は人類を幸せにすることができるか」という大きなものだが、若者の豊かな感性とグローバルな視野、そして活発なディスカッションを通して、未来につながる提言を行っていただきたい。

島尻　安伊子　内閣府特命担当大臣（科学技術政策）／ビデオメッセージ
５月に「Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合」が開催され、私はその議長を務める。それに先立ち高校生やＧ７各国の学生が、「科学技術は人類を幸せにすることができるか」というテーマでサミットが行われることを大変嬉しく思う。本日の議論の成果が次世代を担う若者からの提言として、大臣会合の場で手渡していただけることを楽しみにしている。

◆ハイスクール科学技術サミット
テーマ①医療と科学技術
浅野 可耀さん、近藤 春央さん（茨城県立竹園高等学校）
医療と科学秘術はどちらも生命を守り、生活を良くするという点で強い関係性を持っている。ＷＨＯの資料によると、所得水準の低い国の死亡原因は、呼吸器系疾患、エイズ、下痢性疾患がトップ３で、いわゆる感染症によるものが多い。感染症は予防接種が有効で治療も難しくないので、先進国では死亡率は低い。しかし低所得国には医療施設や医者が不足しているので、この感染症を予防することができない。この状況を速やかに改善するために「途上国と先進国が医療問題について相互支援的な関係を築くこと」という目標を設定したい。そして目標を達成するために、次の３つのアクションを提起したい。①途上国に先進医療技術、機器を提供する。ダ・ヴィンチ外科手術システムやＭＲＩ等の先進医療技術へのアクセスを支援する。そのためのインフラ整備や資金支援を行う。②途上国の教育システムの構築や人材育成を支援する。

途上国における医者不足という問題を解決できるとともに、先進国における災害時の支援等、グローバルな相互支援関係を作ることにもつながる。③新薬の開発等に途上国の植物や人（資源）を活用する。途上国には新薬の開発や創薬に役立つ資源がある。その資源を活用して得た利益を途上国に還元できれば、相互支援型の関係を作ることもできる。機器、人材、薬という３つのアクションによって、医療技術を使って生活をより良くするとともに、グローバルな相互支援な関係を作ることが可能になると考える。

[意見交換]

・途上国にあるリソースを使うということ、それに対するインセンティブを提供するということが重要だ。（エミリー・ヘレン・バートレット/アメリカ）
・ローカルの自助努力を進めるために、教育を進めていくという視点は重要だ。（マイケル・ステインズ/ＥＵ）
・プログラムの持続性を確保するために、例えば財団をつくってプロジェクトを継続的に行う受け皿を作る必要がある。（フランシス・マナンサラ/カナダ）

コメンテーター

久武　幸司　（大）筑波大学　教授

プレゼンテーションには将来の医療を達成するための視点がすべてカバーされていた。どのようにすれば実際にアクションを起こし、目標を達成することができるかということを、全ての参加者のかたがたにぜひ考えていただきたい。

芳賀 克彦　（独）国際協力機構　筑波国際センター所長

素晴らしいプレゼンテーションに、「衛生の重要性への理解促進」という視点を付け加えたい。ヘルスケアサービス、医療サービスを提供･改善するだけではなく、衛生教育によって予防することができる。水質、栄養の重要性なども伝えていく必要がある。

テーマ②新エネルギー

上田　亮さん、板橋　茜さん（茨城県立浦第一高等学校）

現代社会はエネルギーの多くを化石燃料に依存している。これは二酸化炭素の排出によって地球環境に影響を及ぼすとともに、来世紀には枯渇してしまうといわれている。再生可能エネルギーへの移行を早期に進める必要がある。しかし必要な全ての電力（エネルギー）を再生可能エネルギーでまかなう技術がまだ十分ではない。しかし次のような新しいエネルギー技術が生み出されている。①洋上風力発電。陸上よりも風の強い海上での風力発電。②小規模水力発電。小川や用水路等の水流を利用する発電。ダムのような大規模施設が不要。③海洋発電（潮力発電）、海洋温度差発電（海洋熱エネルギー変換）。潮の流れ（海流）や海水の温度差を利用する発電。④環境発電（エネルギー・ハーベスティング）。人体の熱や車の振動等を利用する発電。⑤宇宙太陽光発電。宇宙空間で太陽光を活用する発電等。化石燃料は非常に安くて効率的だが、環境への影響や枯渇といった危険性もある。したがって再生可能エネルギーを使う勇気を持ってほしい。コストは高いが前向きな姿勢が必要だ。小さな一歩かもしれないが、将来のために投資すべきだ。

[意見交換]

・イギリスでも化石燃料の代替エネルギーはコストの問題や教育の不足から、まだ普及は遅れている。化石燃料が有限であることへの理解を高める教育が必要だ。（ロレンス・デイビス/イギリス）
・化石燃料によるエネルギーは過去のものであり、これからは依存できない。興味深かったのは環境発電。小規模なシステムを日常生活の中に取り込んでいけるという点だ。（マニョン・エリ/フランス）
・振動、動きを使って、スマホ等のための小規模な発電ができるというのは面白いと思う。原子力を使わないエネルギー社会の可能性についての言及は参考になった。（ホルガー・マイヤー/ドイツ）

コメンテーター

金山 敏彦　（国研）産業技術総合研究所　副理事長

エネルギーの問題は非常に根本的で長期的な問題だ。化石燃料の代替になる新エネルギーには、非常に多くの技術的なオプション、選択肢がある。その選択には技術面だけでなく、生活様式や社会システム等の点からも考える必要がある。しかしプレゼンテーションで提示されたように、楽観的に、前向きに新エネルギーの可能性を模索すべきだと思う。

久武　幸司　（大）筑波大学　教授

再生可能エネルギーは物理的、物理化学的な反応、科学的な構造とシステムということを思いがちだが、どのようにしてエネルギーを作り、そして効率的に利用するのかという部分も重要だ。生物学的システムによる新エネルギー開発にも取り組んでほしい。

テーマ③食料と科学技術

稲垣　瑠奈さん、由井　貴大さん（茨城県立並木中等教育学校）

「幸せ」にはたくさんの定義があるだろうが、生活できなければ幸せにはなれない。途上国では水や食料が不足して、生きることすら困難という状況がある。途上国では生きること、生活のハードルの高さが違うのだ。食料不足、栄養不足によってたくさんの深刻な問題が起こっている。栄養失調は脳の大きさや機能を低下させ、空腹だと勉強もできない。結果として高所得の仕事に就くことができず、子供達が飢えるという悪循環を生みだす。今８億人似上の人たちが飢えているといわれている。食料問題には２つの要因がある。１つは農業に関する技術の問題。異常気象や病害虫に対応する栽培技術への知識の不足があげられる。２つ目は、戦争で作物を作れない等、経済性の高い作物（例えばカカオ等）の栽培を強いられる、といった社会的な問題だ。食料問題を解決するために、科学技術は有効だ。遺伝子組み換え技術で大量生産が可能な植物や、多くの栄養素を含んだもの、暑さや寒さに強い品種を作ることができる。農作物に合わせて環境を変えたり，環境に影響されない地下栽培等の技術も考えられる。食料問題の解決のために、２つの点をアピールしたい。①全ての人が科学技術を使えるように、科学技術を世界のあらゆる人と共有する。②食料問題の解決には様々な知識が必要になる。いろいろな角度から物事を考えることができる人材を育成する。

[意見交換]

・異常気象で農業生産ができず飢餓の問題が広がっている。確かに遺伝子組み換え食品を大量生産することができるならば、問題解決につながるかもしれない。（ギヨーム・フブリエ/フランス）
・技術に対するアクセスを持たない国々があるので、知識共有、技術の共有という案はとても気に入った。Ｇ７のような国々が行いたいことだ。（アナスタシア・ベンダー/ドイツ）
・開発途上国が支援だけに頼るのではなく、自分達の力で今後進んでいくことができるようにするということが重要で、そのためには人材育成の支援や知識、技術を共有するということが大事だと思う。（アナスタシア・ベンダー/ドイツ）
・これまでの３つの発表で、共通して「教育」の重要性が指摘されていて興味深い。十分な食料を生産するためにも教育が重要であるという指摘は同感だ。なお新技術に関連して、特許の問題をどう解決するかということも必要になることを付け加えたい。（エマ・ミックルライト/ＥＵ）

コメンテーター

岩永 勝（国研）国際農林水産業研究センター　理事長

プレゼンテーションでは、食料問題を明確に定義してくれた。単に飢餓の問題だけではなく、生活や社会にもいろいろな影響を及ぼし、悪循環を生むという定義は良かった。２つのアピールも素晴らしいものだが、追加で提案したい。途上国も自らの伝統技術というものを持っている。先進国の技術と、途上国の歴史的に育まれてきた技術を組み合わせることが有効になる。また農業にはエネルギーが必要だ。農業技術だけでなく他の分野の技術とも組み合わせていくことが重要だ。

塩谷 和正（国研）農業・食品産業技術総合研究機構　理事

提起された点は非常に重要で、また非常に正しい定義だった。しかしさらに議論していく必要があると思う。例えば遺伝子組み換え食品のような問題で、安全性等の点から議論が分かれている。これは本会合で議論するかもしれない問題だ。しかし議論を聞いていて、このハイスクールサミットのような場で、もっと物議を醸すような問題を取り上げて議論し、若者の考えや意見を聞いてみたいと思った。

[中間まとめ]

宮本 宏　つくば国際会議場　コーディネーター

これまでの発表はすべて、問題に立ち向かっていくのに非常に前向きで積極的だと感じた。次代を担う若い人たちですので、とても嬉しく思う。サミットの途中だが、ここで「科学技術は人類を幸せにすることができるだろうか」というテーマへの賛否を、会場の皆さんに聞いてみたい（カードを掲げて意思表示をすることを促す）。多くの人は「幸せにできる」と考えているが、何人かは「できない」と心配をしているようだ。

テーマ④宇宙開発と工学

島野　史子さん、八戸　琢磨さん（(学）茗溪学園　茗溪学園中学校・高等学校）

宇宙開発には、莫大なコストと生命の危険という大きなリスクがある。実際に事故によって命を落としている宇宙飛行士もいる。一方で宇宙開発には多くの利点もある。例えば無重力空間での新素材の実験、真空状態での各種の実験や観測、新薬の実験等、地球上ではできない試みが可能なのだ。現在、宇宙空間には多くの衛星が存在し、様々な分野で人類と社会を支えている。代表的なものは気象衛星、通信衛星、放送衛星だ。この他ＧＰＳや地球環境を観測するための衛星も打ち上げられ活用されている。「宇宙太陽光発電システム（ＳＳＰＳ）」という、野球場よりも大きいソーラーパネルを宇宙空間に設置し太陽光発電を行うというプロジェクトや、誰もが宇宙まで行けるエレベーター（軌道エレベーター）の構想もある。重力の少ない月面は体への負担が少なく、介護も容易なので、老人ホームを作るというアイデアもあるようだ。リスクもある、そしてコストが高いという側面はあっても、宇宙開発からは大いに恩恵が受けられる。宇宙開発には意味がある、そして必ず我々の生活を改善してくれると信じている。

[意見交換]

・宇宙開発、宇宙探索が始まってから、まだ１００年もたっていない。これからどのようなものが可能になるのか、未来にどのようなものが可能かという、いろいろなアイデアがとても面白かった。（ジェイソン・トンプソン・ライアン／アメリカ）
・宇宙、そして工学、宇宙開発は、それ自身がとても興味深いもので、さらに人類にとって重要な将来の資源だと考えている。（ヴィゼンティン・フランチェスコ/イタリア）
・宇宙エレベーターのアイデアはとても刺激的だ。また月に食料を生産する場所（フードハウス）を作るということは、今後の人類の将来にとって重要になると思う。（エヴァ・タグリアフェリ/イタリア）

コメンテーター

今井　良一　（国研）宇宙航空研究開発機構　理事、筑波宇宙センター所長

人類のグローバルな問題について考えていただきたい。例えば気候変動、クリーンエネルギー、環境汚染、食料不足、流行病、こういったようなものがグローバルな問題だ。宇宙開発はグローバルな側面を持っており、どのようにしてグローバルな問題の解決に貢献できるかが重要な視点になる。人類の抱えるグローバル問題への貢献、これを宇宙的な観点から一緒に考えていきたい。

(3) ディスカッションとまとめ

科学技術は人類を幸せにすることができるのか

・技術は幸せを増加することができるし、生活を改善することに役立つ。例えば長寿になる、より健康的な生活ができる、あるいは食料を増やすことができる。しかしそれらは本当に幸せに貢献することなのか。人間の幸せにつながるのか。「幸せ」の意味を定義する必要がある。（ジェイソン・トンプソン・ライアン／アメリカ）
・科学技術が本当に幸せにつながるかどうかは、時としてイエスだが答えは難しい。科学技術というのは過度に使い過ぎると良くない。バランスが必要だと思う。（ギヨーム・フブリエ/フランス）
・科学技術を使うには教育が必要だ。科学技術は人生を良くすることや、生活の質を高める上でのポテンシャルは持っている。しかし科学とそれを使う人間の間にはまだギャップがあると思う。そのことを認識すべきだし、それゆえ教育が重要になる。（エマ・ミックルライト/ＥＵ）
・「科学は魔法ではない」ということを明確にしたい。科学はたくさんものを作り出せる。幸せのためにも、命を奪うためにも科学は利用できる。しかし科学は科学でしかない。それをいかに使うかというのは、我々人間次第だ。(マニョン・エリ/フランス）
・人類が科学技術をどう活用するかが重要だと思う。しかし人間の質、生活の質、あるいは医療、教育等によって、科学技術がもたらす幸せ度は変化するだろう。(ギズブレックト・マーク・ビーター・ロバート／カナダ）
・スカイプやフェイスブックで人々がつながることはできる。しかし食事の時や隣に座っていても、電話やゲームをしているというのは本当に幸せと言えるのか。（エヴァ・タグリアフェリ/イタリア）
・本日のサミットで扱ったテーマはとても重要で大きなものばかりだが、それゆえいろいろな困難をはらんでいる。例えば１つの国だけで解決することはできないし、先進国と途上国が非常に大きな対立をしている場合もある。技術のコスト面も考えなくてはいけない。教育の重要性が提起されたが、教育制度というのは国によって異なるので、知識や技術を移転するのが難しい国々もある。（宮本宏　つくば国際会議場　コーディネーター）
・今日語られたのはトップダウンのアイデアが多かった。外国がこれらの技術を押し付けるというのではなく、途上国ではボトムアップが必要だと思う。トップダウンのアプローチだけでは、国として発展することができない。（マイケル・ステインズ/ＥＵ）
・日本でうまくいったことが必ずしもスーダンではうまくいかないかもしれない。ヨーロッパでうまくいったことがボリビアではうまくいかないかもしれない。それぞれのローカルな状況を見て、ボトムアップで人々に自助努力をさせる、エンパワーメントをしていくということが重要だと思う。（マイケル・ステインズ/ＥＵ）
・科学技術を実現するためにはコストも必要で、例えばアメリカでは宇宙開発分野でも民間企業の役割を高めている。このように、民間企業等を含めて、科学に関与する人材を増やしていかなければいない。（ジェイソン・トンプソン・ライアン／アメリカ）
・科学技術の研究に優先順位はない。食料やエネルギー等はテーマとして早期に解決すべきものだが、他の分野の研究を諦める必要はない。相互に影響を及ぼし合う点からも、１つのことだけに集中するのは賢明ではない。（マニョン・エリ/フランス）

宮本 宏　つくば国際会議場　コーディネーター

最後に、会場の皆さんに質問したい。本日のディスカッションを踏まえて、将来、科学や技術に携わる職業に進みたいと考える人はどのくらいいるのだろうか（カードで意思表示を行うように促す）。―半数くらいだろうか。まだ迷っている人もいるようだが、本日のサミットが科学技術について考えるきっかけになればよいと考えている。以上でディスカッションを終了する。

(4) 来賓感想

笹井　弘之　内閣府　政策統括官（科学技術・イノベーション担当）付参事官（国際担当）

本日の議論にあったように、科学というのは魔法の杖ではない。科学は将来を開いてくれるが、問題の原因にもなり得る。いかに科学を使うかによって変わってくるわけだ。日本が１月に作った新しい科学技術基本計画では、科学技術を進める上で、若い世代が重要であると記述している。ぜひ科学技術の進歩に貢献していただきたい。

トム・クチンスキー氏　ＥＵ代表部　科学技術部

科学技術はとても重要な分野であり、本日のテーマとなった分野もちろん、それ以外にも、さらなる探索･研究が必要な分野がいろいろと存在する。その点から、本日のような若い世代の議論や交流・提言というのは、とても大きな貢献になると思う。科学技術はＥＵと日本の重要な協力分野である。すでにいくつかのプロジェクトが始まっているが、今後さらに連携を深めていきたいと考えている。

A G7 Science and Technology Ministers' Meeting in Tsukuba, Ibaraki Commemorative Event, The Science and Technology High School Summit Minutes of proceeding (English original)

参照　資料編Ｐ 254

【Outline】

Schedule: February 10, 2016, Wednesday, 13:30–16:30
Venue: Tsukuba International Congress Center

【Program】

(Moderators) Ayaka Iitsuka, Motoki Harigae
(Ibaraki Prefectural Namiki Secondary School)

◆ Opening Declaration
- Ayaka Iitsuka, Motoki Harigae (Ibaraki Prefectural Namiki Secondary School))

◆ Greetings from the Organizers
- Masaru Hashimoto
Governor of Ibaraki Prefecture, Chairman of the Promoting Council for the G7 Science & Technology Ministers' Meeting in Tsukuba, Ibaraki
- Kenichi Ichihara
Mayor of Tsukuba City, Vice Chairman of the Promoting Council for the G7 Science & Technology Ministers' Meeting in Tsukuba, Ibaraki
- Aiko Shimajiri (Minister of State for Science and Technology Policy) *Video message

◆ Introduction of the Guests

◆ Summit meeting
(1)Self introduction/Introduction of advisors

(2)Summit meeting
Subtopic 1 'Medicine and Science and Technology'
(Presentation speakers) Kayo Asano, Haruo Kondo (Ibaraki Prefectural Takezono High School) (Experts) Koji Hisatake (Professor, University of Tsukuba)
Katsuhiko Haga (Director General, Tsukuba International Center, Japan International Cooperation Agency)

Subtopic 2 'New Energy'
(Presentation speakers) Akane Itahasi, Ryo Ueda (Ibaraki Prefectural Tsuchiura First High School)
(Expert) Toshihiko Kanayama (Senior Vice-President of the National Institute of Advanced Industrial Science and Technology)

Subtopic 3 'Food and Science and Technology'
(Presentation speakers) Runa Inagaki, Takahiro Yui (Ibaraki Prefectural Namiki Secondary School)
(Experts) Masa Iwanaga (President, Japan International Research Center for Agricultural Sciences)
Kazumasa Shioya (Vice-President of the National Agriculture and Food Research Organization)

Subtopic 4 'Space Development and Engineering'
(Presentation speakers) Fumiko Shimano, Takuma Yabe (Meikei High School)
(Expert) Ryouichi Imai (Vice-President of the Japan Aerospace Exploration Agency, Head of the Tsukuba Space Center)

(3)Discussions and Overview[Summary]
(Advisor) Hiroshi Miyamoto (Coordinator, Tsukuba International Congress Center)

(4)Remarks from the guests
Hiroyuki Sasai
(Director General for Science, Technology and Innovation,Cabinet Office)
Tom Kuczynski
(Science and Technology Section, Delegation of the European Union to Japan)

(Students participating the Summit meeting)

- Giesbrecht Mark Peter Robert (Canada)
- Francis Manansala (Canada)
- Magnon Elie (France)
- Guillaume Feuvrier (France)
- Anastasia Bender (Germany)
- Holger Mayer (Germany)
- Visentin Francesco (Italy)
- Eva Tagliaferri (Italy)
- Roshni Gurung (U.K.)
- Laurence Davies (U.K.)
- Emily Helen Bartlett (U.S.)
- Thompson Jason Ryan (U.S.)
- Emma Micklewrigt (EU)
- Michael Staines (EU)

【Remark summary】

◆ Opening Declaration
Ayaka Iitsuka, Motoki Harigae (Namiki Secondary School)
The aim of this summit meeting is to increase senior and junior high school students' interest in and passion for science and to transmit the voices of the next generation. Under the main theme of "Can Science and Technology Bring Humanity Happiness?" discussion around the four subtopics of "Medicine and Science and Technology," "New Energy," "Food and Science and Technology," and "Space Development and Engineering" will be carried out. The summary of the opinions spoken today will be submitted to the Ministers who will be present at the G7 Science and Technology Ministers' Meeting to be held in Tsukuba, Ibaraki in May as suggestions from the next generation.

◆ Greetings from the Organizers/Greetings from the Guests
Masaru Hashimoto (Governor of Ibaraki Prefecture, Chairman of the Promoting Council for the G7 Science & Technology Ministers' Meeting in Tsukuba, Ibaraki)
Tsukuba is an R&D hub representing Japan and home to more than 20,000 researchers working on the most advanced research in nanotechnology, robot, life science, and other fields. Ibaraki Prefecture, taking full advantage of this environment, is engaged in nurturing human resources who can lead the field of Science and Technology through such events as Innovation Campus, domestic competition of the International Science Olympiads, and national competition of the Science Koshien (science competition for high school students).
This summit is also aimed at increasing the young generation's interest in and passion for science, and at the same time at discussing to make suggestions for the G7 Science and Technology Ministers' Meeting to be held in May in Tsukuba, Ibaraki. I wish today's summit meeting will produce good results to profit the G7 Science and Technology Ministers' Meeting.

Kenichi Ichihara (Mayor of Tsukuba City, Vice Chairman of the Promoting Council for the G7 Science & Technology Ministers' Meeting in Tsukuba, Ibaraki)
Half a century has passed since foundation in 1963; Tsukuba Science City has developed to accumulate nearly 300 research institutions and some 20,000 researchers engaged in leading-edge research activities. The city has been designated as mobility robot special district for public road experiment, and the whole city is working on demonstration experiments, aiming to contribute to further development of Science and Technology and to resolution of environmental and many other issues.
With the major theme of "Can Science and Technology Bring Humanity Happiness?," I hope this summit meeting will come up with proposals for the future through young people's abundant sensibility and global perspective as well as active discussions.

Aiko Shimajiri (Minister of State for Science and Technology Policy) *Video message
I will be the chair of the G7 Science and Technology Ministers' Meeting to be held in Tsukuba in May. I am excited to hear that high school students and international students from the G7 countries will hold the Summit meetings to discuss the theme "Can Science and Technology Bring Humanity Happiness?" ahead of the G7 Science and Technology Ministers' Meeting. I am looking forward to hear results of today's discussions as proposals from the next generation at the ministerial meeting.

◆ Summit meetings
Subtopic 1 Medicine and Science and Technology

Presentation
Kayo Asano, Haruo Kondo (Ibaraki Prefectural Takezono High School)
Medical care and technology have a strong connection, as they both contribute to protecting life and improving life. According to WHO, the top three causes of death in low-income nations are respiratory disease, AIDS, and diarrheal disease, which are mostly infectious diseases. In high-income nations, ratio of death caused by infectious diseases is quite low, because these diseases can be easily prevented or cared by vaccination and medical treatment. However, since low-income nations lack the medical facilities and doctors, they can't prevent such infections.
To improve such situations, we would like to set a target of "Create relationships of mutual support to tackle the issue of medical care between developed and developing countries." Also, in order to achieve this goal, we would like to propose the following three actions.
Provide developing countries with advanced medical technology and devices
To support developing countries in acquiring access to advanced medical technology, such as da Vinci Surgical System and MRI. To help improving

infrastructure and provide financial assistance for this purpose.
Support establishing education system and development of human resources in developing countries
It will help solving the issue of lack of doctors in developing countries, and also contribute to creating mutual support system on a global basis in, for example, supporting developed countries on occasions of disasters.
Utilize plants and human (resources) of developing countries for development of new medicines and other purposes
Developing countries have resources that can be useful for developing or discovering new drugs. If profits gained from the resources can be returned to developing countries, it will help creating mutually supportive relations.
By three actions of devices, human resources, and drugs, we believe it will be possible to use medical technology to improve life and build mutual support relations on a global basis.

[Exchange of opinions]
- I think it is important to use resources in developing countries, and to provide incentives for that. (Emily Helen Bartlett, U.S.)
- The viewpoint of improving education is very important to support local people help themselves. (Michael Staines, EU)
- In order to secure sustainability of the programs it is necessary to create a kind of foundation or some other platform to implement the projects continuously. (Francis Manansala, Canada)

From commentators
Koji Hisatake (Professor, University of Tsukuba)
The presentation succeeded to cover all the viewpoints for enabling future medical care. I would like all the participants to think about how we can actually take actions to achieve these things.

Katsuhiko Haga (Director General, Tsukuba International Center, Japan International Cooperation Agency)
I am very impressed to hear the presentation, but I would like to additionally mention that we have to promote understanding "the importance of the sanitary education." Offering or improving health care service or medical services is important, but sanitary education can lead to prevention of diseases. It is also important to educate them about the quality of water and nutrition.

Subtopic 2 New Energy

Presentation
Ryo Ueda, Akane Itahashi (Ibaraki Prefectural Tsuchiura First High School)
Modern society derives most of energy it needs from fossil fuels. They make CO2, which influence environment of the earth, and are expected to run out in the next century. We need to switch to renewable energy as soon as possible.
Now, we don't have high technology to generate all the electricity from renewable energies. But we already have the following new energy technology.
Ocean wind power generation
Wind power generation on the ocean where wind power is stronger than on the land.
Small-scale hydroelectric generation
Power generation using water currents of streamlets and canals. It doesn't need large-scale facility like dams.
Ocean power generation (tidal power generation, ocean thermal power generation using thermal energy conversion)
Power generation using tides (ocean flows) and differences in ocean water temperatures.
Energy harvesting
Power generation using heat of human bodies, vehicle vibration, and others.
Space solar power generation
Power generation utilizing solar power in space, etc.
Fossil fuels are cheap and efficient, but have risks of damaging the environment and running out. We suggest that you should have the courage to use renewable energy. They are expensive, but you must have a positive attitude towards using them. It might be only a small step but it is investment for the future.

[Exchange of opinions]
- In the UK too, new energies alternative to fossil fuels have not yet been put in place because they are expensive and also due to lack of education. Education is needed to deepen understanding about the limited supply of fossil fuels. (Laurence Davies, U.K.)
- Fossil energy is something that you really can't rely on anymore. It was interesting to hear about energy harvesting, because it will enable incorporating small-scale system in everyday life. (Magnon Elie, France)
- I liked the idea of energy harvesting that you could use heat or vibrations to use it for small electronic devices like smart phones or something and to provide some good ideas to the future without nuclear energy. (Holger Mayer, Germany)

From commentators
Toshihiko Kanayama (Senior Vice-President of the National Institute of Advanced Industrial Science and Technology)
The issue of energy is a long-lasting and essential issue to work out. Now there are so many technological options in new energy to replace fossil fuels. We have to think about these options not only from the viewpoint of technology but also from the viewpoint of way of living or social system. But as the presentation showed, I think we should try to find new possibility of new energy with an optimistic and positive attitude.

Koji Hisatake (Professor, University of Tsukuba)
People tend to think of renewable energies as physical or chemical reactions or chemical systems, or scientific structure and system, but it is also important to think about how to generate energy and how we can use them in an efficient way. So I hope some of the participants here would develop a source of renewable energy using some biological system.

Subtopic 3 Food and Science and Technology

Presentation
Runa Inagaki, Takahiro Yui (Ibaraki Prefectural Namiki Secondary School)
There can be many definitions of happiness, but it's clear you cannot be happy if you cannot survive. In developing countries, some people are even having difficulty in surviving because of lack of water and food. They have different height of hurdle for surviving or living in developing countries. There are many serious problems caused by the lack of nutrients and food. It is said that a severe lack of nutrients could influence the size and functions of brain seriously. Hunger leads to difficulty in studying, and consequently, getting a high-ended job. It will be difficult to provide for their children who also suffer from hunger. This is a vicious cycle. It is said that now over 800 million people suffer from starving.
There are two factors in the issue of food. First, there is an issue of agricultural technology, such as lack of knowledge in cultivation technology to cope with abnormal climate or disease and pest. The other is a social problem. For example, in some places they cannot cultivate because of war. Or in other places, they are forced to cultivate crops with high economic value, cacao for example.
Science and Technology is effective for solving the issue of food. Genetic recombination technology can enable cultivating plants for high-volume production, those with high nutrition, or those resistant to heat or coldness. It would also be possible to change the environment to suit agricultural crops or start underground cultivation without any influence from the environment.
We would like to make two proposals for solving the issue of food.
We should share Science and Technology with all the people in the world so that all the people can use them.
Various kinds of knowledge are needed to solve the issue of food. We should make a system to foster human resources who can consider the issue from various angles.

[Exchange of opinions]
- Hunger problem is getting wide-spread, because abnormal weather is affecting agricultural production. Maybe, possibility of mass production by using genetically modified organisms can solve the issue. (Guillaume Feuvrier, France)
- I really liked your ideas that we should share knowledge and technology with other countries that do not have access to them. This is what we, G7 nations, should do. (Anastasia Bender, Germany)
- It is important that people from developing countries do not have to rely on our help in the future so that they can live on their own. Now, it is really important to support them in fostering human resources and share knowledge and technology with them. (Anastasia Bender, Germany)
- It's interesting that the importance of education was pointed out in all the first three presentations. I think you are right saying that education is important to produce enough food. I would like to add that we have to think about how to solve the issue of patents when using new technology. (Emma Micklewrigt, EU)

From commentators
Masa Iwanaga (President, Japan International Research Center for Agricultural Sciences)
The presentation clearly defined the issue of food. I found your definition was correct saying that the issue is not only the problem of hunger but also problem of life and society, creating vicious cycle.
I also found your two appeals were very good, but I would like to add another thing. Developing countries have their own traditional techniques. Combining technology from developed countries with these historically nurtured techniques of developing countries will be effective. Also, agriculture requires energy. We have to combine agricultural technology with other technologies as well.

Kazumasa Shioya (Vice-President of the National Agriculture and Food Research Organization)
The issue raised in the presentation was very important and your definition was very correct. But I think you need further discussion. For example, the issue of GMOs is very controversial from the viewpoint of safety. This might be discussed in the real summit meeting.
Listening to your discussion, I wanted to hear more view and opinions from young people on the more controversial issues on opportunities similar to this high school summit.

[Interim summary]
Hiroshi Miyamoto (Coordinator, Tsukuba International Congress Center)
I am very much impressed that all these presentations had very positive attitude to confront the problem. And I am very much pleased, because these presentations were made by young generation.
Now, though the summit meeting has not yet finished, I would like to ask the floor audience a question, "Can Science and Technology bring or make people happy or not?"
(He requests the audience to show their opinion by raising one of the cards.)
Many people believe "Yes," but some people have worries and answered "No."

Subtopic 4 Space Development and Engineering

Presentation
Fumiko Shimano, Takuma Yabe (Meikei High School)
There are great risks in space development; huge costs and danger for life. In fact, some astronauts lost their lives. On the other hand, there are many advantages in space development. For example, we will be able to carry out experiment of new materials in zero-gravity space, various experiments and observation in vacuum state, and experiment of new drugs, which are all impossible on the earth.
Now, there are many artificial satellites in the space, which support humanity and society in the various fields. Major examples are weather satellites, communication satellites, and broadcasting satellites. There are also other satellites for GPS and observation of earth environment launched and used.
There are projects of "Space Solar Power System (SSPS)" to set a solar panel larger than baseball field in outer space and generate electricity, and of Space Elevator to bring human to the space. Also, there is an idea of building home for the elderly on the moon, because lower gravity can lessen physical burden and make nursing care easier.
There are risks too, and it is expensive, but we humans will benefit enormously from development of space. Development of space is meaningful and I am sure it will improve our lives.

[Exchange of opinions]
- It's only been less than a century since we first entered into space development and space exploration. Ideas about the things that are going to be available to use in the future are really amazing. (Thompson Jason Ryan, U.S.)
- Space, engineering, and space development are really fascinating things, and I believe that they are crucial future resources for humans. (Visentin Francesco, Italy)
- I especially enjoyed the idea of building an elevator that could transport people from Earth to space, and also creating food houses on the moon to produce food. These ideas will be very important for humans in the future. (Eva Tagliaferri, Italy)

From commentators
Ryouichi Imai (Vice-President of the Japan Aerospace Exploration Agency, Head of the Tsukuba Space Center)
I would like to say please think about the global issues for humankind. I mean for instance, such as climate change, clean energy, environmental pollution, food shortage, or epidemic diseases, those are the global issues. Space development itself has a global aspect, and the key is how to contribute to solving the global issues for humankind. Let's think about this from the viewpoint of space.

（3）Discussions and Overview
"Can Science and Technology Bring Humanity Happiness?"

- Technology could lead to increasing happiness, and improvement in lives. It helps, for example, living longer, living healthier, and increasing food. But does that all contribute to happiness, an overall happiness for the human race? We need definition of "happiness." (Thompson Jason Ryan, U.S.)
- Can Science and Technology really lead to happiness? Sometimes "Yes," but it is a difficult question to answer. We have to keep a balance. It should not be overused. (Guillaume Feuvrier, France)
- We need education to use Science and Technology. Science and Technology have potential to improve lives and the quality of life. But there is a gap between the science and the people who are using it. We must be aware of that, and that is why we need education. (Emma Micklewrigt, EU)
- We need to make it clear that "science is not magic." We can make a lot of things with science. We can use the science for happiness, and also for killing people. Science is just science. How to use science? It is up to us. (Magnon Elie, France)
- It all depends on how humanity uses these Science and Technology. Better improvement in humans and the quality of life, or medical care and education will change the degree of happiness Science and Technology can bring. (Giesbrecht Mark Peter Robert, Canada)
- People can get connected with each other by Skype or Facebook. But if, when they are sitting next to each other, at lunch or dinner, they are using phone or playing game, is it really happiness like? (Eva Tagliaferri, Italy)
- The themes of today's summit meeting are all very important and broad subjects, and therefore include many difficulties. For example, the issues cannot be solved in one nation. Sometimes, there are really big conflicts between developed nations and developing nations. We have to think about the aspect of costs in technology too. Many people mentioned the importance of education, but, since education system differs very much in countries, it is sometimes really difficult to transfer knowledge or technology to some countries. (Hiroshi Miyamoto, advisor, Japan)
- Many of the ideas presented today were top down. Developing countries need bottom-up, and foreign countries should not just thrust technology to them. Top-down approach alone cannot help them to develop as a nation. (Michael Staines, EU)
- What worked for Japan won't work for Sudan, and what worked for Europe won't work for Bolivia. We need to look at what is happening there to make sure people can be empowered from the bottom. (Michael Staines, EU)
- We also need to have money to put Science and Technology in use. For example, the U.S. has recently started to increase the role of private enterprise in space development. This way, we need to increase number of people involved in science, including those in private enterprise. (Thompson Jason Ryan, U.S.)
- There is no priority in research of Science and Technology. Of course, the issues of food and energy need to be solved at early stage, but it is not necessary to give up research in other fields. It is not wise to concentrate too much on one thing, because many fields can have good influence on each other. (Magnon Elie, France)

[Summary]
Hiroshi Miyamoto (Coordinator, Tsukuba International Congress Center)
Finally, I would like to ask all of you floor audience. After hearing the discussion, how many of you want to engage in future some kind of Science and Technology-related job? (Suggesting the audience to raise one of the cards.)
About a half……. Some people have not yet made their mind. I hope today's summit meeting will offer you an opportunity to think about Science and Technology. This will be the end of the discussion.

（4）Remarks from the Guests
Hiroyuki Sasai
(Director General for Science, Technology and Innovation,Cabinet Office)
As someone mentioned in today's discussion, science is not a magic wand. Science can open the future, but on the other hand, science can cause a problem. It depends on how we use it.
The new Science and Technology Basic Plan set in Japan in January reads that young people like you are very important to enhance Science and Technology. I hope you will be an important pillar for advancement of Science and Technology.

Tom Kuczynski (Science and Technology Section, Delegation of the European Union to Japan)
Science and Technology is a very important area. Adding to the fields treated as today's themes, there are various other fields where we need further exploration and research. So, I think young generation's discussions, interchange, and proposals will be high contribution.
Science and Technology is a very important area for cooperation between EU and Japan. Some collaborative projects have already started and we are very dedicated to further strengthen this collaboration.

2.3 広報・ＰＲ

5 清真学園によるツアー提案

清真学園（鹿嶋市）の高校生が総合的な学習の一環として茨城・つくばの魅力を発信する視察コースの企画・提案を行った。

(1)**実施主体**：清真学園高等学校

(2)**日時**：平成２７年１２月１９日(土)１１：３０～１２：３０

(3)**場所**：清真学園高等学校　情報処理教室

(4)**参加者**：清真学園高等学校「起業ゼミ」及び「サイエンスコミュニケーターゼミ」１、２年生約５０名

(5)**内容**：

・Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合の概要

・Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合をとおして発信したいこと（国及び開催地にとっての意義）

・受講生によるブレインストーミング他

(6)**講師**：

真子　博　内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）付参事官補佐

清瀬　一浩　茨城県国際課長（Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会事務局長代理）

6 海外メディア向けツアーの実施

参照　概要編Ｐ 69

大臣会合の開催及び、茨城・つくばの魅力をＰＲするため、在京海外メディア等を対象に視察ツアーを実施した。

(1)**実施主体**：協議会

(2)**日時**：平成２８年３月２５日(金)９：００～１８：１５

(3)**参加メディア**：５カ国６社（日本２社、アメリカ１社、台湾１社、カザフスタン１社、カタール１社）

(4)**視察先**：清真学園高等学校により提案されたツアーコースを参考に、視察先を設定した。

・カガミクリスタル（株）

・シャトーカミヤ（昼食）

・ＣＹＢＥＲＤＹＮＥ（株）

・つくばＳｃｉｅｎｃｅ Ｅｄｇｅ ２０１６（於：つくば国際会議場）

・筑波鍛刀場

(5)**清真学園高等学校の生徒によるツアーガイド**

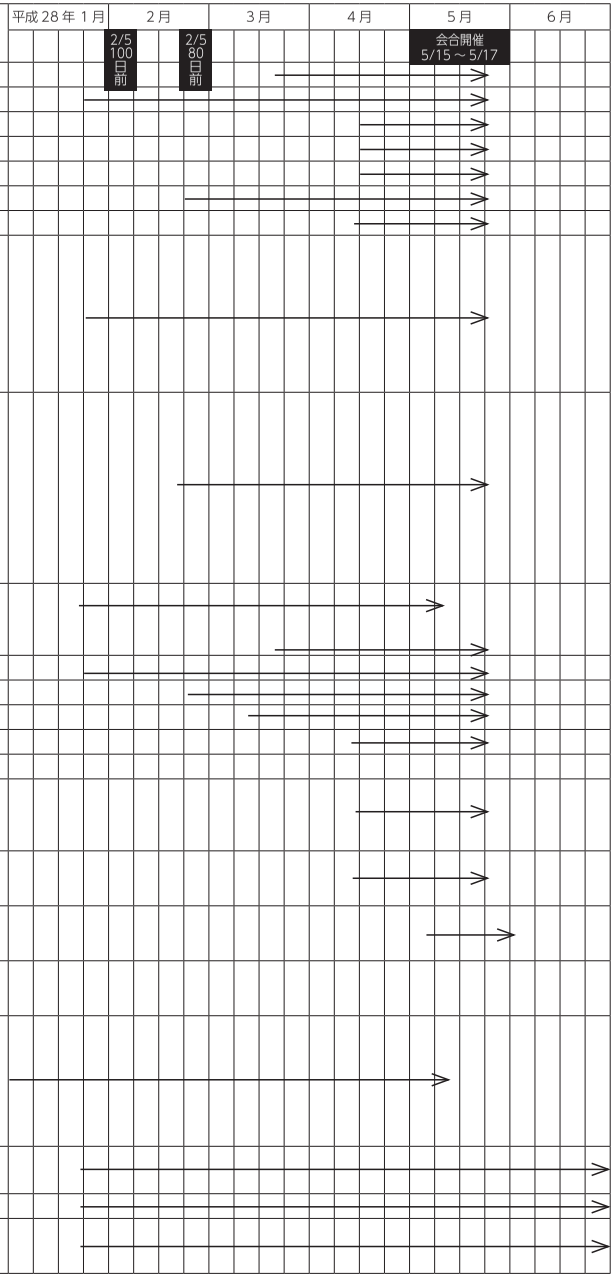
茨城・つくばの魅力を発信するための視察コースを企画・提案した清真学園高等学校の生徒がツアーに同行し、参加者を英語で案内した。

7 広報活動

Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合開催に向けた広報活動

参照　概要編Ｐ 71

		内容等	期間
つくば市広報	ポスター	市庁舎、県・市施設、小中高校等	平成２８年３月～５月１７日
	リーフレット	市内各戸、市庁舎、県・市施設、小中高校等	平成２７年１１月～平成２８年５月１７日
	横断幕の設置	ＴＸつくば駅周辺、周辺幹線道路、市庁舎（14 箇所）	平成２８年４月～５月１７日
	懸垂幕の設置	市庁舎、つくばクレオスクエア（３箇所）	平成２８年４月～５月１７日
	バナーフラッグの設置	ＴＸつくば駅周辺、研究学園駅周辺（７４箇所）	平成２８年４月～５月１７日
	カウントダウンボードの設置	市役所、つくば国際会議場	平成２８年２月５日～５月１７日
	柱巻広告	ＴＸつくば駅南北自由通路	平成２８年３月３１日～５月２３日
	ケーブルテレビ放送広告	［媒体］　ACCS ［内容］　大臣会合の開催周知及び協議会活動の報告等 ［放送］ ○市長が語る（月～日　５回／日） 平成２７年９月２１日～１０月４日 / 平成２８年２月２２日～３月６日 / ４月１８日～５月１日 ○ウィークリーＡＣＣＳ（月～金　５回／日） 平成２８年２月１日～７日 / ３月１４日～２０日 / ４月１８日～２４日 / ５月９日～１４日	平成２７年９月～５月
	コミュニティ放送広告	［媒体］　ラヂオつくば ［内容］　大臣会合の開催周知及び協議会活動の報告等 ［放送］ ○つくば市広報ステーション（月～金　２回／日） 平成２８年２月１日～３月４日 / ３月7日～４月１日 / ４月４日～４月２９日 ○つくば You've got 84.2(発信 chu)！（月～金　１回 / 日） 平成２８年３月１６日～２２日 / ３月２３日～４月1日 / ４月４日～４月２２日 / ４月２５日～５月１３日 ○つくば、ホンモノ！調査隊！（月～金　１回／日） 平成２８年５月３日～６日	平成２８年２月～５月
	広報紙	［媒体］　つくば市広報紙「広報つくば」 ［内容］　大臣会合の開催周知等 ［掲載日］　平成２７年８月１日・９月１日 平成２８年３月１日・４月１日・５月１日	平成２７年８月～平成２８年５月
その他広報	ポスター	茨城県庁舎・茨城県施設・応援事業等	平成２８年３月～５月１７日
	リーフレット	茨城県庁舎・茨城県施設・応援事業等	平成２７年 11 月～平成２８年５月１７日
	カウントダウンボードの設置	茨城県庁舎	平成２８年２月５日～５月１７日
		内閣府本府庁舎１階と中央合同庁舎第８号館２階の連絡通路	平成２８年２月２５日～５月１７日
	柱巻広告	茨城空港旅客ターミナルビル	平成２８年４月１日～５月１７日
	ラジオ広告	［媒体］　茨城放送 ［内容］　大臣会合の開催周知等 ［放送日］　平成２８年４月４日 / ２０日 / ２５日 平成２８年５月１２日 / １３日 / １６日	平成２８年４月～５月
	データ放送広告	［媒体］　ＮＨＫ総合テレビ ［内容］　大臣会合の開催周知等 ［放送日］　平成２８年４月９日～１６日 / ５月8日～１４日	平成２８年４月～平成２８年５月
	電車広告	［媒体］　つくばエクスプレス ［内容］　特別ラッピング列車の運行 ［運行期間］　平成２８年４月２８日～５月２８日	平成２８年４月２８日～５月２８日
	新聞広告（茨城県版）	［媒体］　読売新聞・朝日新聞・毎日新聞・茨城新聞・産経新聞 ［内容］　大臣会合の開催周知 ［掲載日］　平成２８年５月１４日	平成 28 年５月 14 日
	広報紙	［媒体］　茨城県広報紙「ひばり」 ［内容］　大臣会合の開催周知等 ［掲載日］　平成２７年８月１日 / １２月１日 平成２８年１月１日 / ４月１日 / ５月１日 ［媒体］　茨城県教育広報紙「教育いばらき」 ［内容］　大臣会合の開催周知等 ［掲載日］　平成２８年２月８日	平成２７年８月～平成２８年５月
	インターネットテレビ	［媒体］　いばキラＴＶ ［内容］　大臣会合の開催周知、各種イベント情報等	平成２７年７月～平成２８年６月
	ホームページ	［掲載内容］　大臣会合の概要、各種イベント情報等	平成２７年９月～平成２８年１２月（予定）
	協議会だより	［内容］　大臣会合の開催周知及び協議会活動の報告等 ［対象］　協議会員向け通信を発行 ［発行］　月１回　全７回発行	平成２７年 12 月～平成２８年６月



※一部、つくば市の独自事業を含む

8 プレスリリース及び報道実績

(1)協議会等から発表したプレスリリース

＜プレスリリースの一覧＞

発表日	発表元	内容
平成２６年１１月１０日（月）	茨城県国際課	茨城つくばサミット関係閣僚会合誘致推進協議会の設立総会について
平成２７年６月２４日（水）	茨城県国際課	橋本知事等による２０１６サミット科学技術大臣会合に関する要望について
平成２７年６月２６日（金）	茨城県国際課	茨城つくばサミット関係閣僚会合誘致推進協議会第２回総会の開催について
平成２７年７月３日（金）	茨城県国際課	知事臨時記者会見
平成２７年７月１０日（金）	茨城県国際課	Ｇ７科学技術大臣会合の開催に伴う現地視察について
平成２７年７月２８日（火）	茨城県国際課	Ｇ７科学技術大臣会合の開催日等の発表について
平成２７年８月１０日（月）	茨城県国際課	Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合茨城県推進本部の設置について
平成２７年９月２日（水）	茨城県国際課	Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会設立総会の開催について
平成２７年１１月１６日（月）	推進協議会	Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会第２回総会について
平成２７年１１月１７日（火）	推進協議会	Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会第２回総会の開催結果について
平成２７年１１月１９日（木）	推進協議会	Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合をＰＲする ポスター のデザインを公募します。
平成２８年１月８日（金）	推進協議会	「伊勢志摩サミット・関係閣僚会合開催県アンテナショップスタンプラリー」が開催されます。
平成２８年１月１２日（火）	推進協議会	Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会テロ対策パートナーシップ会議の開催について
平成２８年１月２０日（水）	推進協議会	Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合の受け入れ準備の一環として、大使館向けツアーを開催します！
平成２８年２月２日（火）	推進協議会	協賛金贈呈式を行います
平成２８年２月３日（水）	推進協議会	“Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合 100 日前イベント” ポスターデザイン最優秀賞授賞式及びカウントダウンボード除幕式を開催します。
平成２８年２月４日（木）	推進協議会	協賛金贈呈式を行いました
	推進協議会	Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合記念事業ハイスクール科学技術サミット開催！
平成２８年２月５日（金）	推進協議会	Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会ポスターデザイン最優秀賞授賞式等について
平成２８年２月１７日（水）	推進協議会	Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合記念事業ハイスクール科学技術サミット開催しました！
平成２８年２月２６日（金）	推進協議会	特殊切手　伊勢志摩サミット（関係閣僚会合シート）の発行について
平成２８年３月１０日（木）	茨城県国際課	伊勢志摩サミット及び関係閣僚会合開催自治体の代表者による総理大臣官邸への表敬訪問について
平成２８年３月１４日（月）	推進協議会	Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合を記念し、大使館向けツアーを開催します！
平成２８年３月１７日（木）	推進協議会	海外メディア向けツアー「Discover What Makes Tsukuba Edge!」
平成２８年３月２４日（木）	推進協議会 (県医療対策課)	Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合時のテロ等の発生に備えた県内医療従事者向け研修会の開催について
	推進協議会	第２回協賛金贈呈式を行います
平成２８年３月２８日（月）	推進協議会	第２回協賛金贈呈式を開催しました
平成２８年３月３１日（木）	推進協議会	高級実務者向けのエクスカーション及び歓迎夕食会の開催について
平成２８年４月２１日（木）	推進協議会	オリジナルフレーム切手セット「Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合開催記念」の販売開始について
平成２８年４月２７日（水）	推進協議会	オリジナルフレーム切手セット「Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合開催記念」の日本郵便（株）関東支社から知事への贈呈について

⑵ 報道実績

期間：平成２６年８月２９日（金）－平成２８年５月３１日（火）　（単位：件）

	平成２６年	平成２７年	平成２８年					合計
			1月	2月	3月	4月	5月	
新聞	8	１５８	５５	４６	４３	１１７	３５０	７７７
Ｗｅｂ	2	５４	９７	８９	４８	６２	４０６	７５８
ＴＶ	0	8	4	6	2	5	３３	５８
ラジオ	0	0	1	1	１２	２１	１０	４５
合計	１０	２２０	１５７	１４２	１０５	２０５	７９９	1,６３８

9 茨城空港におけるＰＲ

大臣会合開催に向けた県内の機運醸成及び開催をきっかけとした県外からの誘客促進を図るため、ＰＲ活動を行った。

実施主体	期間等	催事名等	開催場所
(公財)茨城県開発公社	平成２８年３月－５月	茨城空港ターミナルビル内でのポスター掲出	茨城空港ターミナルビル内
関東鉄道(株)	平成２８年３月－５月	茨城空港連絡バス(東京直行バス)へのチラシ設置	茨城空港連絡バス(東京直行バス)車内
茨城県	平成２８年４月１４日(月)－４月１６日(水)	那覇直行便就航に係るＰＲキャラバン隊等による就航先でのチラシ配布	沖縄県庁・那覇市役所・沖縄タイムス・琉球新報・沖縄観光コンベンションビューロー
茨城空港利用促進等協議会	平成２８年４・５月号	茨城空港時刻表表紙へのロゴ掲載	―

10 協力事業

(1)つくばロボットフェスタ

ロボットに対する市民の方々の関心の喚起と理解の醸成を図るとともに、Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合の周知及び機運の醸成を図るため、「つくばロボットフェスタ」が開催された。

①実施主体等：

主催　つくば市、つくばロボットフェスタ実行委員会
（つくば市、産業技術総合研究所、日刊工業新聞社、筑波大学）

共催　（一社）二足歩行ロボット協会

後援　茨城県、つくば市教育委員会

協力　Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会

協賛　（株）常陽銀行、関彰商事（株）、（株）筑波銀行

②日時：平成２８年２月１３日（土）、１４日（日）１０：００～１７：００

③場所：つくばカピオ　サイバーダインアリーナ及び大清水公園

④参加者：約３，５００名

(2) ＩＮＮＯＶＡＴＩＯＮ　ＷＯＲＬＤ　ＦＥＳＴＡ　２０１６

Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合のプレイベントとして、企業家、イノベーター、アーティストが集い、テクノロジーと音楽の祭典として「ＩＮＮＯＶＡＴＩＯＮ　ＷＯＲＬＤ　ＦＥＳＴＡ　２０１６」が開催された。

①実施主体：

主催　（株）Ｊ－ＷＡＶＥ、（大）筑波大学

後援　文部科学省、茨城県、つくば市

協力　Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会／ＴＥＣＨ　ＩＮ　ＡＳＩＡ

特別協賛　（株）ＣＨＩＮＴＡＩ

協賛　ＮＴＮ（株）、キュレーションマガジン「ａｎｔｅｎｎａ＊」、（株）ＪＣＢ

②日時：平成２８年５月１４日（土）１１：００～２０：００

③場所：（大）筑波大学　大学会館

④参加者：約３，０００名

11 応援事業

(1) 事業名

Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会　応援事業

(2) 応援事業の実施対象期間

平成２８年１２月３１日（土）まで

(3) 提案方法

応援事業提案シートに事業の内容等を記載の上、電子メール、郵送又はＦＡＸによる提出

(4) 募集期間

平成２８年５月まで

(5) 応援事業に対する協議会の対応

・協議会作成のポスター等、ＰＲ用物品の提供

・応援事業の実施主体、事業内容を協議会ホームページや記録誌への掲載

(6) 応援事業一覧（※本書発行日以降の情報を含む）

①記念グッズ販売等

時期	機関名	内容	場所
平成２８年2月１５日(月)－１２月３１日(土)	(株)コルカリーノ	記念かりんとう販売	直売所・卸売販売所
平成２８年5月１５日(日)－5月１７日(火)	日清食品ホールディングス(株)	大臣会合へのカップヌードルの提供	つくば国際会議場

②ＰＲポスター掲示・パンフレット配布等

【平成２８年】

時期	機関名	内容
1月－5月１７日(火)	(株)つくば研究支援センター	名刺にＰＲ表記
2月－5月	(一社)つくば観光コンベンション協会	ＰＲポスター掲示･パンフレット配布
2月－5月	(一社)つくば観光コンベンション協会	ＰＲポスター掲示･パンフレット配布
2月－5月	国土交通省国土技術政策総合研究所	ＰＲポスター掲示
2月－5月	国土交通省国土地理院	ＰＲポスター掲示
2月－１２月	(大)茨城大学	ＰＲポスター掲示
2月１２日(金)－3月２５日(金)	茨城県日独文化協会	国際交流活動紹介展
2月１５日(月)－	全国農業協同組合連合会茨城県本部	ＰＲポスター掲示
2月２２日(月)－	(株)常陽銀行	カウントダウンボード設置
2月２６日(金)－	(一社)つくば観光コンベンション協会	デジタルサインでのＰＲポスター表示
3月－	英公社(株)	観光地図「わお！マップ　つくば･土浦エリア」への掲載･地図の提供
3月1日(火)－	筑波都市整備(株)	ＰＲポスター掲示･パンフレット配布
3月8日(火)－	ＮＥＸＣＯ東日本　水戸管理事務所(東日本高速道路(株))	高速道路休憩所での広報ＰＲ
3月１８日(金)－	ＮＥＸＣＯ東日本　谷和原管理事務所(東日本高速道路(株))	高速道路休憩所での広報ＰＲ
3月１９日(土)－3月２０日(日)	茨城県日独文化協会	国際ロータリー次年度会員研修会
3月２０日(日)	つくば市	水戸ホーリーホック「つくば市招待デー」vs ファジアーノ岡山でパンフレット配布

2.3 広報・ＰＲ

時期	機関名	内容
３月２８日(月)	関東鉄道(株)	関東鉄道各営業所・バスシートポケットへのチラシ配置
３月２９日(火)	茨城県日独文化協会	茨城日独文化協会総会　中川、塙、井上祝宴会
４月１日(金)－	首都圏新都市鉄道(株)	ＰＲポスター掲示・パンフレット配布
４月１日(金) －５月１７日(火)	イオンリテール(株)	北関東・新潟カンパニー及び南関東カンパニー管轄店舗でポスター掲示・チラシ配架
４月１日(金) －５月１７日(火)	水戸プラザホテル	ＰＲポスター掲出・パンフレット配布
４月１日(金) －５月１７日(火)	日本郵便株式会社筑波学園郵便局	ＰＲポスター掲示
４月１日(金)－	筑波学院大学	のぼり旗掲示
４月１６日(土) －４月１７日(日)	茨城県日独文化協会	国際ロータリー第２８２０地区(茨城)年次大会
５月７日(土)	つくば市	第２６回つくば学園ウォークラリー大会
５月２８日(土) －６月５日(日)	(独)国立科学博物館筑波実験植物園	企画展「亜熱帯植物展」
７月２６日(火) －８月７日(日)	(独)国立科学博物館筑波実験植物園	企画展「夏休み植物園フェスタ」
１０月１日(土) －１０月１０日(月)	(独)国立科学博物館筑波実験植物園	企画展「きのこ展」
１０月９日(日) －１０月１０日(月)	東京ガス(株)つくば支社	第１６回ガスカップ少年少女サッカー大会
１１月５日(水) －１１月１３日(木)	(独)国立科学博物館筑波実験植物園	企画展「鳥の眼で見る自然展」
１２月１１日(木) －１２月１８日(金)	(独)国立科学博物館筑波実験植物園	企画展「つくば蘭展」

③イベント等

【平成２７年】

時期	機関名	イベント名称
８月２２日(土) －８月２３日(日)	つくば市	まつりつくば２０１５
８月２９日(土)	茨城県教育委員会	平成２７年度科学の甲子園ジュニア茨城県大会
９月１９日(土)	つくば市	敬老福祉大会
１０月１０日(土)	つくば市	おひさまサンサン生き生きまつり
１０月２５日(日)	茨城県教育委員会	ミニ博士によるミニ学会
１１月３日(火)	(大)茨城大学	地方創生シンポジウム
１１月７日(土)	つくば市	アントラーズフレンドリータウンデイズ
１１月１６日(月)	つくば市	つくば成田間高速バス出発式
１１月２１日(土)	つくば青年会議所	つくば光の森２０１５　点灯式
１１月２２日(日)	つくば市	第３５回つくばマラソン
１１月２９日(日)	つくば市	つくばワールドフットサル２０１５
１２月２日(水) －１２月５日(土)	茨城県	２０１５年国際ロボット展
１２月５日(土)	つくば市	外務省職員による国際情勢講演会
１２月９日(水)	(株)常陽銀行	常陽ものづくり企業フォーラム
１２月１２日(土)	筑波学院大学	日中対抗国際ペーパーカーレース
１２月１４日(月)	茨城県	いばらき国際観光セミナー
１２月１６日(水)	(一社)茨城研究開発型企業交流協会	技術交流会
１２月 －平成２８年５月	(株)常陽銀行	シャッター装飾
１２月２４日(木)	筑波学院大学	茨城県高等学校教育研究会工業部第６７回生徒研究発表会

【平成２８年】

時期	機関名	内容
１月	筑波研究学園都市交流協議会	燃料電池自動車導入意向アンケート調査
１月 －５月１７日(火)	(株)つくば研究支援センター	幟旗掲揚
１月９日(土)	(大)茨城大学	高校生の科学研究発表会
１月１０日(日)	つくば市	平成２８年　つくば市成人の集い
１月１２日(火)	筑波研究学園都市交流協議会	筑協新春講演会
１月１７日(日)	つくば市	ボランティアフェスタ
１月２９日(金)	(株)つくば研究支援センター	新春講演会・賀詞交歓会
１月３０日(土)	つくば市	つくば健康マラソン大会
１月３１日(日)	つくば市	国連職員による国際理解講演会
２月２日(火)	(株)つくば研究支援センター	いばらき近未来技術実証推進事業ロボット実験試験検証発表会
２月３日(水)	(大)茨城大学	国際シンポジウム
２月４日(木)	(一財)茨城県科学技術振興財団	ＳＡＴテクノロジー・ショーケース
２月４日(木)	つくば市	つくばビジネスフェア２０１６
２月６日(土)	(公財)茨城県国際交流協会	第２５回外国人による日本語スピーチコンテスト
２月７日(日)	つくば市国際交流協会	日本語ではなそう・あそぼう
２月９日(火)	茨城県	いばらき外資系企業等誘致セミナー＆交流会
２月９日(火)	つくば市	第９回つくば産産学連携促進市ｉｎアキバ
２月１１日(木)	つくばセンター地区活性化協議会	筑波山梅まつりプレイベント　梅に願いを
２月１３日(土) －２月１４日(日)	つくば市	つくばロボットフェスタ
２月１６日(火)	(株)常陽銀行	常陽　食の商談会２０１６ｉｎつくば
２月２０日(土) －３月６日(日)	つくば市	チャレンジアートフェスティバル
２月２０日(土) －３月２１日(日)	つくば市	第４３回筑波山梅まつり
２月２３日(火)	筑波学園ガス(株)	環境講演会
２月２４日(水)	(株)つくば研究支援センター	第１１回つくばビジネスマッチング会
２月２５日(木)	(株)つくば研究支援センター	茨城県成長産業振興協議会「サービス・ロボットの最新動向に関する講演会」
２月２７日(土) －２月２８日(日)	(株)スワローインキュベート	高校生限定！！いばらきＩｏＴアイディアソン
３月６日(日)	茨城県商工労働部産業政策課	いばらきコンテンツコレクション
３月６日(日)	つくば市国際交流協会	Ｌｉｎｋ！国際交流とボランティア活動報告会
３月１８日(金)	(国研)森林総合研究所	国際森林デー森林総合研究所シンポジウム「ＣＯＰ２１パリ協定が求める森林のすがた」
３月２５日(金) －３月２６日(土)	つくば国際会議場	つくば　Ｓｃｉｅｎｃｅ　Ｅｄｇｅ　２０１６
３月２５日(金) －６月１２日(日)	(公財)つくば科学万博記念財団	特別展「飛ぶ」
３月２９日(火) －４月２日(木)	近畿日本ツーリスト(株)つくば支店	英語ＤＥサイエンス　ＳｐｒｉｎｇＣａｍｐ
４月１日(金) －４月２８日(日)	オークラフロンティアホテルつくば	Ｇ７各国代表メニューによるフェア
４月１日(金) －４月３日(日)	ホテルグランド東雲	ワールドフードディナーバイキング
４月１日(金) －４月２０日(水)	(一社)つくば観光コンベンション協会	第１６回筑波山頂カタクリの花まつり
４月１日(金) －５月１７日(火)	水戸プラザホテル	Ｇ７記念世界のワインセレクション
４月１４日(木) －１２月１７日(土)	(大)筑波大学東京キャンパス	朝永振一郎記念「科学の芽」賞
４月２０日(水)	筑波学院大学	筑波学院大学ロボットエクササイズ
４月２３日(土)	つくば市	ウェルカムフラワーCity つくば　春の花壇づくり
４月２６日(火)	つくば市	日本教育工学協会「学校情報化優良校認定」表彰式

2.3 広報・ＰＲ

時期	機関名	内容
４月２９日(金)	つくば市	小田城跡開園記念式典
５月７日(土)	(公財)つくば科学万博記念財団	宇宙飛行士講演会「宇宙への挑戦」
５月１４日(土)	(株)Ｊ－ＷＡＶＥ、(大)筑波大学	ＩＮＮＯＶＡＴＩＯＮ　ＷＯＲＬＤ　ＦＥＳＴＡ　２０１６
５月１４日(土)－５月２２日(日)	(公財)つくば科学万博記念財団	ロボット技術の展示
５月１５日(日)－５月１７日(火)	日清食品ホールディングス(株)	カップヌードル１，０００食の提供
５月１５日(日)－５月１７日(火)	(学)清真学園高等学校・中学校	エクスカーションプラン提案
５月１６日(月)	(一社)茨城研究開発型企業交流協会	総会＆産学官交流会
５月２１日(土)－５月２２日(日)	東京ガス(株)つくば支社	つくば支社発足イベント
５月２２日(日)	(一社)つくば青年会議所	第１１回いばらきちびっ子オセロキャラバンｉｎつくば
５月２７日(金)－５月２９日(日)	スタートアップウィークエンドつくば実行委員会	Ｓｔａｒｔ　Ｕｐ　Ｗｅｅｋｅｎｅｄ
６月	(大)茨城大学	サイエンステクノロジーフェスタ２０１６
６月４日(土)－６月５日(日)	つくば市・つくばフェスティバル実行委員会	つくばフェスティバル２０１６
７月	(一財)茨城県科学振興財団	つくばサイエンスカフェＳＣＩＥＮＴＩＡ
７月１４日(木)	常陽新聞株式会社	つくばイノベーション懇話会　第一回「つくばから宇宙へ」
７月２２日(金)	ＴＩＡ(※)	第７回ＴＩＡシンポジウム　新たなる連携の「かけはし」
７月１６日(土)－９月４日(日)	(公財)つくば科学万博記念財団	特別展「ロボットと人工知能」
８月５日(金)	つくば国際会議場	サイエンスキャスティング２０１６
９月１７日(土)－９月１９日(月)	(大)筑波大学	ＴＧＳＷ２０１６

（※）ＴＩＡ:（国研）産業技術総合研究所、（国研）物質・材料研究機構、（大）筑波大学、（共）高エネルギー加速器研究機構、（大）東京大学の５研究機関と、（一社）日本経済団体連合会が運営する研究拠点

12 サミットメニューの提供（学校給食）

つくば市内の小・中学生に、国際的に知名度が高い会議が開催されることや、参加国の食文化等に少しでも興味を持ってもらうため、日本を除く７か国の料理とサミット開催地である伊勢・志摩にちなんだ料理を学校給食メニューに加えて提供した。

※誘致段階の時期からの企画で、ロシアの不参加が確定していなかったため、ロシアメニューも提供

⑴実施主体

つくば市

⑵Ｇ８サミット参加国メニュー

①期間：平成２７年６月－１１月

②提供場所

つくば市立幼稚園・小、中学校及び茨城県立並木中等教育学校

つくば市役所内　レストラン「ソレイユ」

③概要

各給食センターの栄養士が各国を代表する料理を選び、学校給食用にアレンジして、日本を除く７か国の料理を献立に加え、１か国に付き１回ずつ提供。

また､つくば市役所内にあるレストランでも学校給食のＰＲも兼ねて同メニューの提供を実施。

④メニュー

1)イタリア

フォカッチャ
牛乳
たらの香草パン粉焼き
スパゲッティサラダ
カチャトーラ
ティラミス

2)カナダ

胚芽パン
メープル＆マーガリン
牛乳
グリルチキン
シーフードサラダ
サーモンチャウダー

3)ドイツ

カイザーロール
ホワイトチョコクリーム
牛乳
ハムステーキ
お豆のサラダ
アイントプフ

4)フランス

ソフトフランスパン
はちみつクリーム
牛乳
鮭のエスカベージュ
ポテトのチーズ煮
フルーツジュレ

5)アメリカ

ホットドックチリソース
セレクトジュース
コールスロー
クラムチャウダー

6)イギリス

食パン
牛乳
白身魚のフリット
ポテトサラダ
むぎとやさいのスープ煮

7)ロシア

ごはん
牛乳
サーモンフライ
オリヴィエサラダ
ビーフストロガノフ

G8 サミット参加国メニュー（ドイツ）を楽しむ市原市長（左）、柿沼教育長（つくば市教育委員会）（右）と竹園東小の児童ら

⑶ 伊勢志摩メニュー

①**期間：**平成２８年５月１６日（月）－２７日（金）

②**提供場所：**つくば市立幼稚園・小、中学校及び茨城県立並木中等教育学校

③**概要**

サミット開催地である伊勢志摩ならではのあおさ等を使用したメニューを提供。

④**メニュー**

ごはん
牛乳
かつおと大豆の揚げ煮
糸かま入りおひたし
青さの味噌汁

伊勢志摩メニュー

13 Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合開催を記念したグッズ等

	グッズ等	企画・販売元	デザイン
1	Ｇ７開催記念かりんとう	企画・販売元：(株)コルカリーノ 販売場所：直売所・卸売販売所等 販売期間：平成２８年２月１５日(月)－１２月３１日(土) 価格：1袋50グラム入り324円(税込) 種類：ほろあま地栗、いにしえ味噌、常陸あきそば、完熟メロン、朝摘みいちご、あまさけ、七色しょうゆ(７種)	
2	オリジナルフレーム切手セット「Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合開催記念」	企画・販売元：日本郵便(株)関東支社 販売場所：茨城県内の全郵便局(計４６５局) 販売開始日：平成２８年４月２８日(木) 発行部数：１，０３０セット 価格：１セット１，５００円(税込)	